
学生主導の活動が地域を興し



地域の未来を創る

高畠町商工観光課 ブランド戦略係長 鈴木祐介

山形県高畠町とは

人口 約22,000人

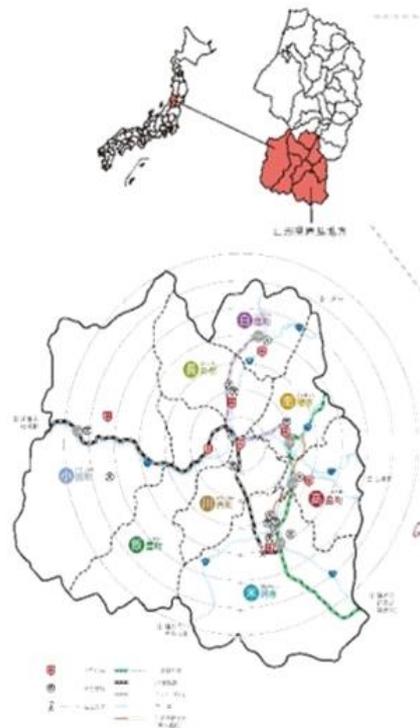
東京駅から新幹線で2時間15分

1973年、近代農業が推奨される時代に地域環境を大切にするため高畠町有機農業研究会を地域の若手農業者が立ち上げた。有機農業の分野では全国でも注目を集め、現在も有機農業水稻栽培面積は山形県内でトップを牽引し続けている。

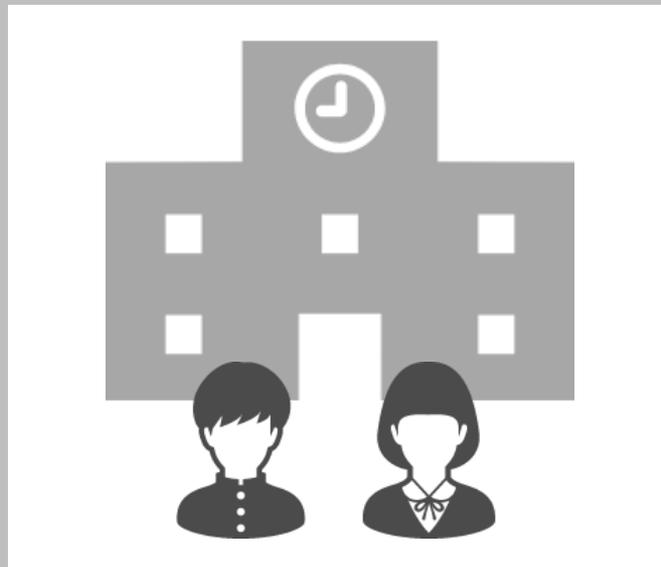
また、県内でも食品加工業が特出している地域であり、ジャムやドレッシング、ワイン、日本酒などが製造され、全国の百貨店等でも人気のあるものが多い。ここ数年、JR東日本と連携し、海外への販路拡大（輸出）とインバウンド拡大に挑戦している。

近年、町の次世代リーダーを育てる人財育成事業が始まり、県外から住所を異動せずに地域内の学校に転入できるデュアルスクールの導入など、地域内外の人との交流事業が広がっている。

まちづくりは、ひとづくり。面白い人たちが集まり地域を創る。

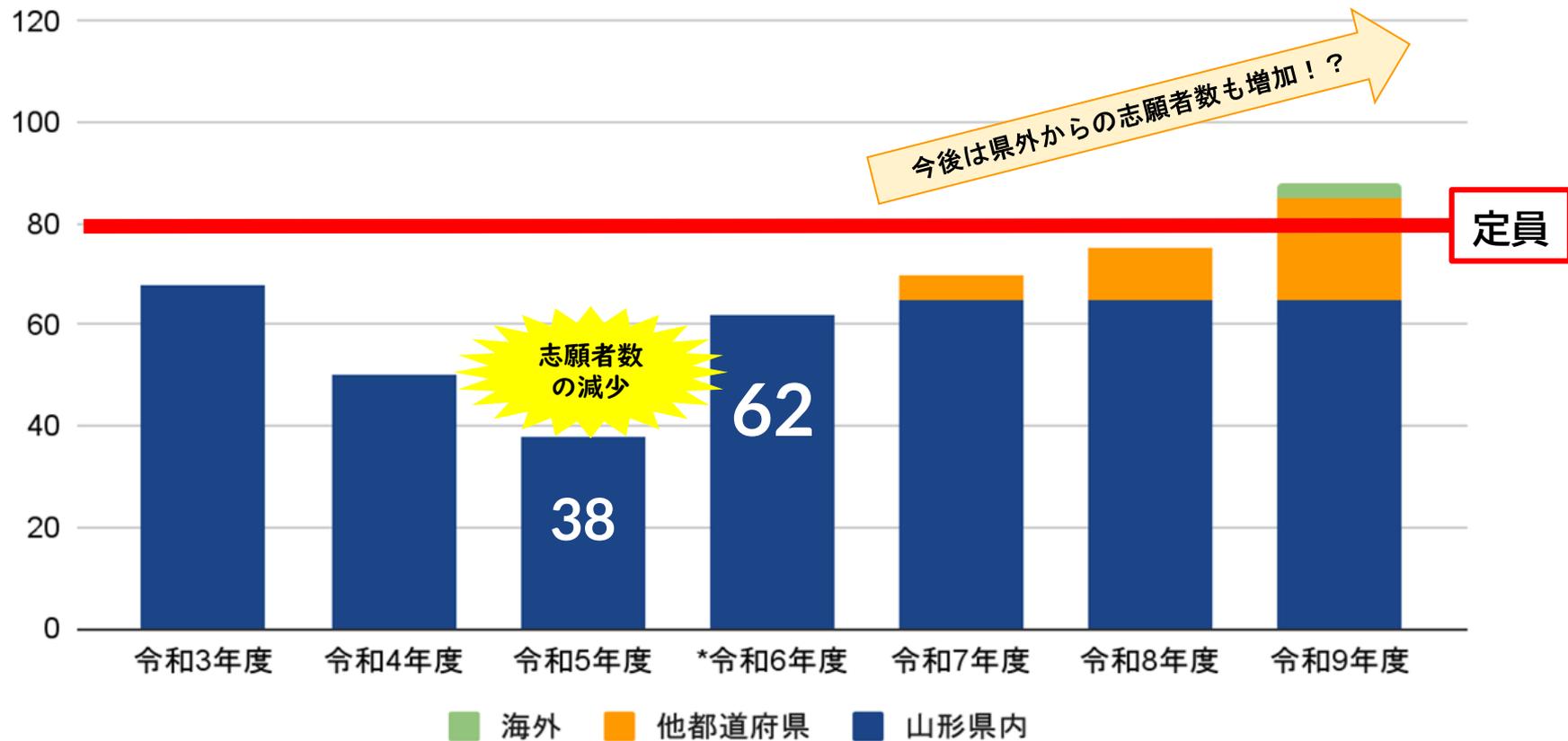


魅力的な地域資源（ヒト、モノ、コト）が地域にはたくさんあるが
地域に関わる機会が少ない



地域の魅力を知らずに、町を出ていく
若者の流出、地域力の低下、地域産業の弱体化

高畠高校志願者数



山形県立高畠高校の魅力化へ向けた活動で 学生にわくわくを！

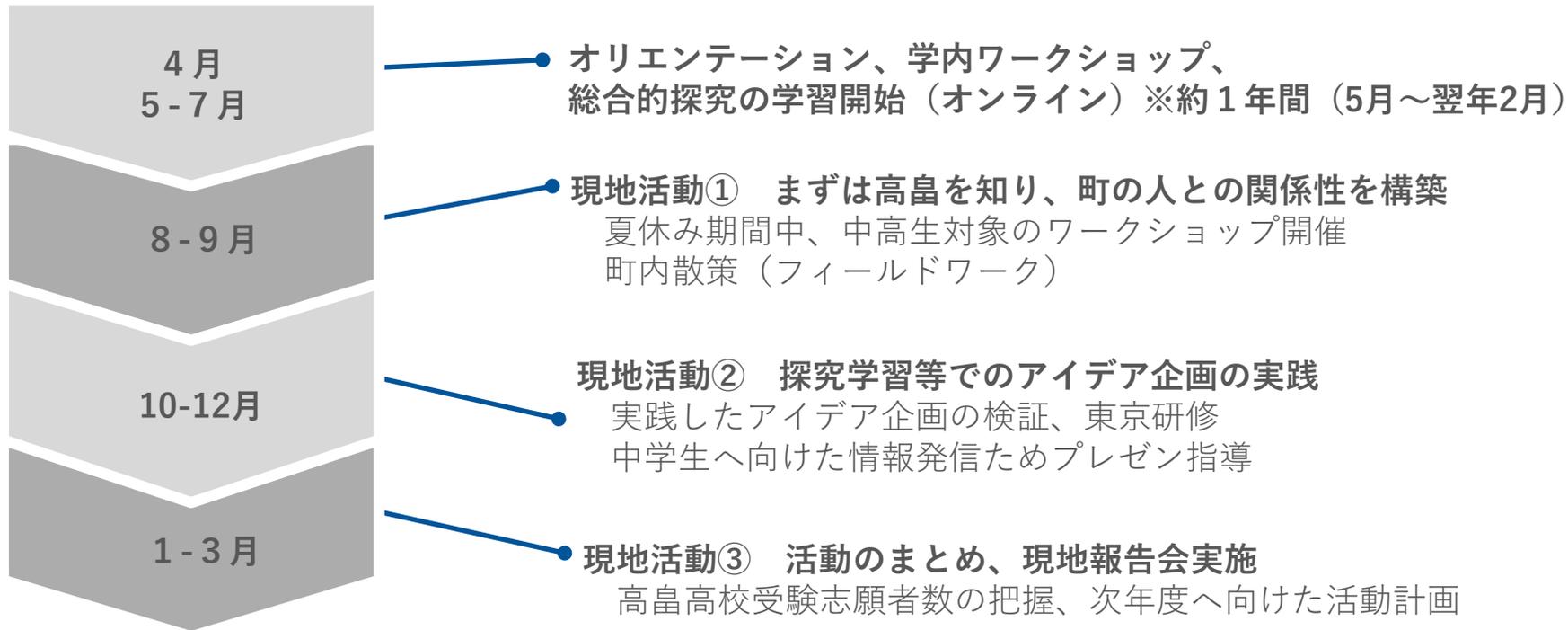


1. 総合的な探求の学習の時間を担当
(毎週木曜 14:25-15:15) ※オンライン授業
2. 多様な関係者とのフィールドワーク
(アイデア吸収・魅力発見の機会創出)
3. 外部の機関・組織・人をつなぐ
(大学生がハブとしての役割を担う)

- ・ 役場、地域おこし協力隊、学校との定例MTG（月1回程度）の開催
- ・ 授業後の振り返りMTG（30分程度/毎回）
- ・ 高畠町立中学校への情報発信、中学生との共創活動の場の創出

アイデアの考案、実践、分析、検証！ **高畠高校の志願者数を増やす！**

2024年度東大FS 事業スケジュール（予定）



※関係者（役場、学校、学生）合同定例MTGは、月1程度で開催

※関係者間の連絡は、LINEグループやGoogleチャットを使用する

地域観光資源の掘り起こし、磨き上げ

(魅力ある観光ルートへの構築)



花園のシダレザクラ

たなぐらまち

福島県棚倉町

福島県棚倉町とは？

人口：約13,000人

東京駅からは新幹線と路線バスで2時間15分

福島・茨城。栃木の三県にまたがる標高1,022Mの八溝山を中心とする奥久慈の豊かで美しい自然に恵まれた城下町です。

江戸時代には、丹羽長重が棚倉城を築城して以来、棚倉藩十万石の城下町として、政治・経済・文化の中心地、交通の要所として繁栄しました。令和7年に築城400年を迎えます。



史跡「棚倉城跡」



陸奥国一宮「馬場都々古別神社」



棚倉町の観光における特徴

- ◆豊かな自然環境
- ◆豊富な歴史資源・文化資源
- ◆特色ある農産物



山本不動尊



ブルーベリー加工品



棚倉産いちご



奥州一宮八槻都々古別神社

棚倉町の観光振興の取り組み

「第6次棚倉町振興計画」より

- ・ 観光資源の有効活用と魅力ある誘客対策を進める。
- ・ 広域連携による周遊型・滞在型観光の創出を目指す。
- ・ 交流人口の増加を目指す。
- ・ 観光協会等の組織の充実を図り、観光資源の整備と活用が図られ「訪れてみたい」「また訪れたい」と思われる魅力あふれるまちを目指す。
- ・ 訪れた人たちが快く過ごせる環境対策と町民の「おもてなしの心」の醸成を進める。

観光庁の取り組み

「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくり

旅行者に、地域の文化や生業に触れてもらうことで、地域住民も、その価値を再認識し、自らの地域等を誇りに感じる⇒地域の更なる魅力向上を通じて、旅行者・地域住民の双方の好循環を実現

今後の棚倉町の観光振興のための視点



視点①
持続可能な観光

視点②
町民が育て、多様な交流が生まれる観光

視点③
新時代に対応した観光

学生さんに期待すること

◎観光コンテンツの洗い出しと整理

◎魅力ある観光ルートの構築のための課題の整理、問題提起、観光ルートの提案

棚倉町の観光地域づくりに活かす

事業スケジュール

6～8月 第1回現地活動

8～12月 第2回現地活動

1～3月 第3回現地活動

現地報告会



越中最大の松倉城跡を中心とした 里山の暮らしと地域の再興

～ 山城の国史跡指定に向けた地域活性化と
古民家再生・移住者受入れの取組み ～



国史跡指定を目指す松倉城跡



松倉地区から臨む富山湾



小菅沼ヤギの杜の田んぼアート



魚津市イメージキャラクター
ミラたん



富山県魚津市 松倉地区
(魚津市地域協働課 石川 竜也)

令和6年4月



富山県魚津市 (UOZU CITY) の概要

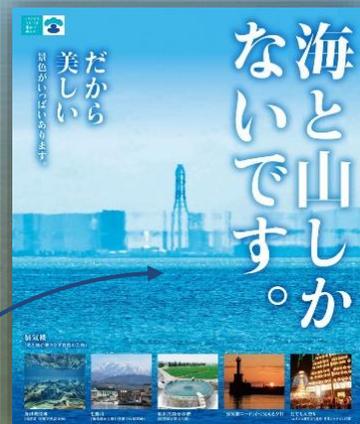
◆市制：昭和27年施行

◆人口：39,145人

(※人口・世帯数は令和6年3月1日現在)

◆面積：200.61km²

◆世帯：16,934世帯



光と風が織りなす
自然の芸術「蜃気楼」
(魚津市の三大奇観の1つ)

天然のいけす「富山湾」で
獲れる豊富な魚介類



受入地区の現状・課題とR4年度の取組み

▼ 現状と課題

魚津市内13地区の中で松倉地区も市平均より高齢化が進み、人口減少に伴う地域力の衰退、空き家の増加、担い手不足、耕作放棄地などの課題が山積

「歴史と文化を育む松倉」地区データ (R5. 8末時点)

松倉地区内人口 (人)		909	松倉地区高齢化率 (%)		36.5
人口内訳	15歳未満	78	【参考】	魚津市高齢化率	34.5
	15~64歳	499		富山県高齢化率	33.0
	65歳以上	332		全国高齢化率	29.0

▼ 令和4年度の取組み

まつくら未来会議を実施 (富山県中山間地域話し合い促進事業を活用)

- ・松倉地区の若いメンバーを中心にワークショップ等を実施
- ・**まつくら未来計画** (素案) を策定 ⇒ 今後地域内の若手を中心に活動を本格化!



事業名	X年 (利活用決定後)	オープン1~5年目								
外部交流・移住	松倉もちりカフェ ○概要 年齢・男女を問わず、気軽に集って自然に食したり、体験したりして楽しむ場所 ○場所 松倉保育園 (空き家も検討) ○時間 9:00 から 19:00	準備 ①保育館の改修→市に依頼 (トイレ、水廻り) ②松倉自治振興会 松倉自然交流部会を協議 人材、スタッフ募集 もちもちハウスに協力 運営費後、人材育成 メニュー、商品開発 周知活動	スタッフの賃金、シフト アンケート調査 メニュー追加 (ジビエ料理) 店内の様子を SNS で発信	メニュー増 利用者増 収入増 地域に還元 →若い世代にされる	そば打ち体験 みんなが待つ暮らせる村“まつくら”					
	MATSUKURA NATURE ACTIVITY PARK ○概要 親子が気軽に自然体験ができる。松倉のフィールドを使って遊び、アクティビティ後、空き家をゲストハウスとして宿泊し、松倉を堪能してもらおう。 ○運営日及び時間 土・日・祝日 9:00~17:00	サイクリング用自転車準備 バギーコース設置 利用料金の検討 安全管理の確認 体験者の保険加入 アクティビティ利用者向けのカフェ (週末)	1年目 農業体験 (稲作、そば、サツマイモ) →体験田の活用、体験中の写真撮影 サウナの設置	2年目 イワナの買い付け 空き家の確保 →リノベーション (場所、設備状態)	3年目 旧松倉小プールで釣り堀 (無料) 宿泊用品の確保 ジップラインの整備	4年目 アスレチック設置 ラフティング・カヌーの整備	費用 クラウドファンディング スポンサー募集	クラウドファンディング	クラウドファンディング	料金プランの見直し
コミュニティ	松倉ホテルのキャンプ場 (松倉キャンプ村) ○概要 地区内外のコミュニケーションの場として旧松倉小学校グラウンドにキャンプ場、BBQ広場を開設。キャンプ場を拠点にホテルを現に松倉城跡、やまの杜へ (地区内外移動)。 ・旧松倉小グラウンド ・旧坪野小跡 ・松倉城跡入城の門広場 ・クリンティの森	松倉自治振興会 キャンプ場会の設置 地域性で各種イベントを行っている まつくらのコミュニティ活動をスタートさせる ・キャンプの日 ・BBQ 用かまどの設置 ・星空観賞会 ・花火大会	スタート 管理者が必要 まきわり体験							
	山村プチ留学 in まつくら	(4月) 松倉自治振興会 (商会) 事業者の募集 役員の出選 NPO 法人立ち上げ	(9月) 空き家 (県6) 持ち主と交渉 (熊倉・坪野・栗山町周辺) ・補助金調査 NPO 法人設立 月別定例会 ・拠点リーダーを決める (地元若手、学生) ・事業プランの検討	(4月) 補助金申請 留学プラン作成 協力者の募集	(9月) 補助金獲得 →空き家の改修 改修イベント (DIY 体験) モデルツアーの実施 (学童に合わせたプラン) 広報活動	(4月) 事業スタート	資金 まちづくり交付金、補助金	福祉・生活環境、子育て・教育	産業・雇用	
松倉地域学園 ○概要 誰もが気軽に集って遊べる場所を開設 ○時間 月・日 10:00~14:00 ○場所 松倉地区内の類似公民館		主体者・協力者: ボランティア団体等 必要な準備: 大人用の机・椅子、先生の募集、チラシ作成、販路販売の準備 内容: 料理教室、自然の遊び (虫の観察、ホテルの鑑賞)、スポーツ体験、駄菓子屋、絵画と、イワナつかみなど	事業スタート							



FSプログラムで学生に提案いただきたい・期待すること

▼ 地域の弱み、強み、目指すところ

【弱み】中山間地域であるが故に…

→ 少子高齢化に伴う地域内人口・世帯数の減少、空き家の増加、地域づくり活動や地域資源の維持管理に係る担い手不足など

【強み】中山間地域であるからこそ…

→ 受け継がれるべき地域の歴史・文化、人のつながり・温かさ、地域で育まれた食、四季折々の恵まれた自然などの地域特性や地域資源（右図参照）

【目指すところ】

⇒ 地域の「面的」な活性化に向けて地域内の意識を醸成し、地域内外を問わず若い世代を含めた多くの人々が参画できる活動を行い地域を元気にすること。

▼ 学生に提案いただきたいこと、期待すること

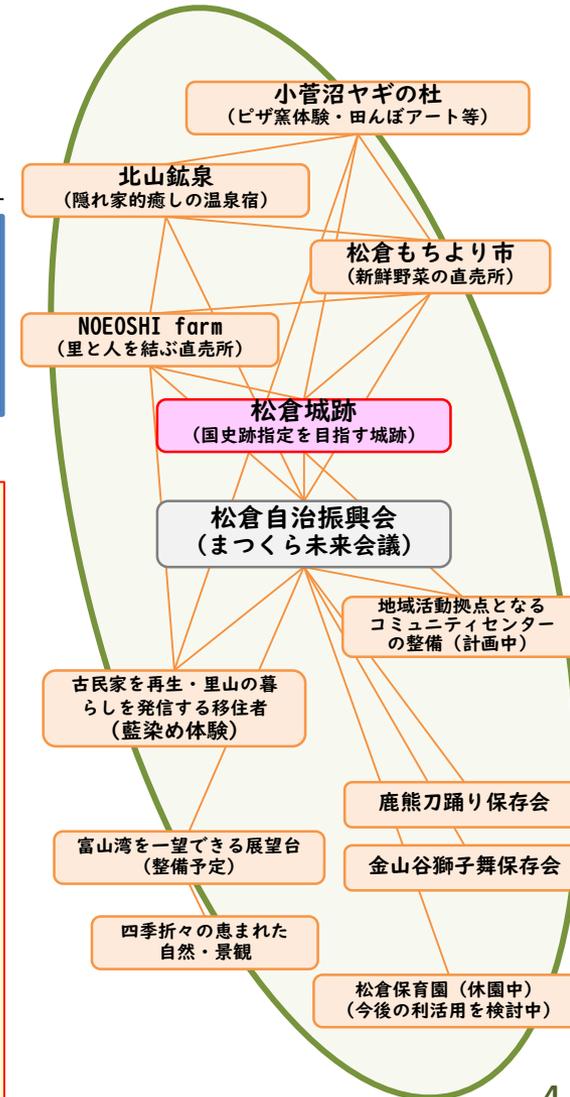
【★メイン★】

松倉地区の地域性を深く知っていただくため、右記のような地域資源等に触れ、体験いただき、課題名にあるとおり「**松倉城跡を核とした地域の活性化**」に係る具体的な提言・提案をお願いしたい。

【◇サブ◇】

- ・ 空き家も大きな課題であり、空家の利活用や古民家再生について、地域外の若い学生の視点から何らかのヒントをいただきたい。
- ・ 活動の1つとして「まつくら未来会議」の地域の若いメンバーと意見交換会を行うなど積極的な「地域の人」との交流をお願いしたい。
- ・ 状況が許されれば、FS終了後も何らかの形で当該地区や魚津市に関わりを持っていただきたい。

松倉地区の地域資源等（イメージ）





FSプログラム事業スケジュール（案）

▼富山県魚津市松倉地区 2024プログラムスケジュール（予定）

【6月中】

◆オンラインMTG

- ・顔合せ
- ・地域資源や課題等の事前共有・整理

【8月中下旬】

◆現地活動1回目

- ・地域を「知る」体験等
(松倉城跡散策、里山の活動や草刈り体験、地域住民との交流会)

【11月上旬】

◆現地活動2回目

- ・地域課題の整理、課題解決提言に向けた情報収集等

【翌年3月上旬】

◆現地報告会

- ・報告・提言内容の最終整理、市主催のフォーラムでの特別報告

※提案スケジュールは仮の予定です。参加学生の皆さんと地域と調整を図りながら進めていきます。
※上記スケジュール以外にも、必要に応じてオンラインにて学生と打合せを行うことを想定しています。

～ 皆さまのご参加、お待ちしております ～



受け継がれるべき地域の
歴史・文化

魚津市松倉地区の **地域資源**

人の温かさ
・ふれあい

地域で育まれた **食**

四季折々の恵まれた **自然**

四季折々の恵まれた

おがみ 雄神地区活性化プラン アドベンチャーワールドおがみ推進事業



富山県砺波市雄神地区

となみ 砺波市（概要）について

【みどころ】

日本最大 砺波平野の散居村



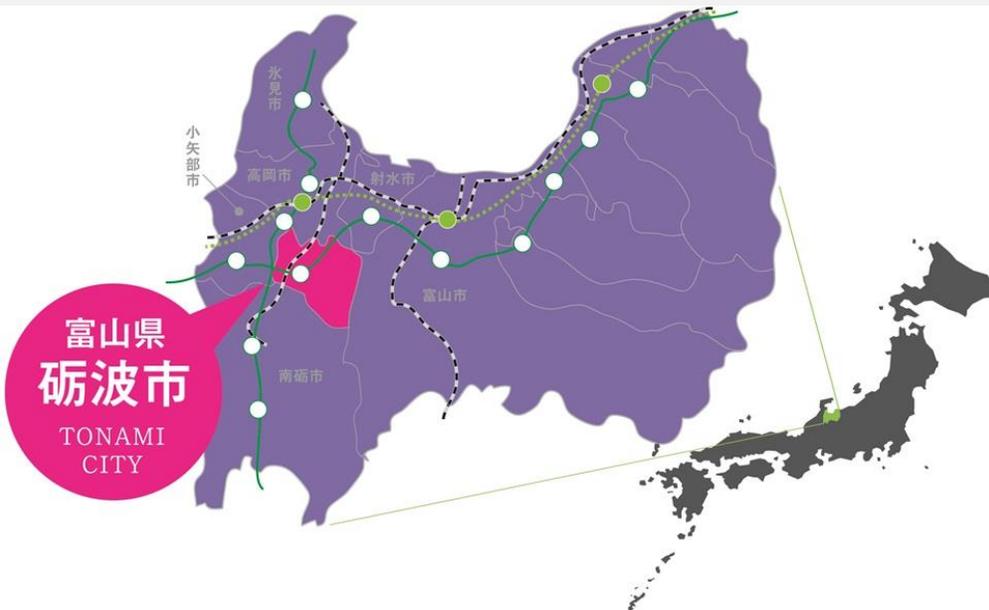
【特産品・、味覚】

おおかど

チューリップ（球根・切花）、大門素麺、庄川ゆず、雪たまねぎ、越中三助焼き、三郎丸蒸留所ウイスキーなど

【その他】

出町子供歌舞伎曳山、となみチューリップフェア、となみ夜高まつり、となみ夢の平コスモスウォッチング、冬の庄川峡など



平成16年11月に砺波市と庄川町が合併

・面積：127km²
（11番目/15市町村）

・人口：47,012人
（4番目/15市町村）

※令和6年1月末時点

砺波市雄神地区について

雄神地区は砺波市の東部に位置し、庄川沿いの東西約2km、南北約5kmの集落で三つの自治会があります。

庄川の河岸段丘上に形成された当地区は、雄神川と谷内川に生まれ、古代から人々が定住、豊かな自然と史跡・文化財が多い地域です。

当地区の課題としては高齢化、人口減少が進み過疎化があります。子どもたちの人口も減り続け、令和5年3月に雄神保育所が閉所されました。

しかし、現在も住民には結束力があり、地域活動が活発に行われています。

(里山保全活動、公民館活動で全国表彰「地域包括ケア顕彰」受賞)

人口：701人

世帯：252世帯

(R6.1月末時点)



コミュニティの拠点 雄神集会センター



同センター内の「カフェおがみ」



イノシシ対策
電気柵設置
万里の長城作戦



ゼロ磁場の「山上の池」
古来より「雨乞いの祈祷」場所



雄神神社は西暦80年の鎮座と伝えられている。弁財天社では33年に一度、雄神神社から「瀬織津姫神」を弁財天社に迎え、御開扉大祭が行われる。R5年に21回目が開催された。

活性化に向けた話し合い事業

令和4年度「どうする雄神会議」を実施【中山間地域話し合い促進事業を活用】



第1回会議
「地域の未来像について」



第2回会議
「まち点検&
アイデア大会」



第3回会議
「みんなで作るアクションプラン」

「どうする雄神会議」で提案されたアクションプラン

1. 自然維持と文化財の活用 ①雄神の自然・史跡体験ツアー ②パワースポット巡り
2. 保育所利活用 ①雄神ネットワーク・コア施設整備事業 ②わくわく・アドベンチャーワールドおがみ連携推進事業
③歴史・文化・食べ物を知ってもらう雄神青少年の家事業 ④カフェ・ライブハウス ⑤カムカム雄神事業
3. デジタル自治会推進事業

アクションプラン

アドベンチャーワールドおがみ推進事業

地域資源を有効に活用し地域の活性化を推進する。

①複合施設整備事業（旧保育所を地区の活性化の拠点として利活用）〈住民交流〉

- ・地区内外から気軽に集える交流施設
- ・子どもから高齢者まで楽しめる交流イベントを開催し、地域ににぎわいを創出する。
- ・高齢者の生活支援、子育て支援につながる事業を展開する。
- ・将来は雄神ネットワーク化と情報発信のコア施設とする。



②パワースポット雄神の発信事業〈自然体験・観光資源〉

- ・県内の他市町村に類がない文化遺産の保全を図るとともに、地区内外に文化財の情報を発信し、雄神を訪れてもらうことで地域の活性化を図る。
- ・遊歩道、案内看板の整備とロゲイニング等のイベントを企画する。



③デジタル自治会事業

- ・デジタル媒体を活用することによって、地域の安全・安心を図るとともに地域コミュニティを醸成する。
- ・防災・コミュニケーションアプリを導入する。

実行中のアクションプラン

●令和5年度の活動を踏まえた 令和6年度取り組み

①複合施設整備事業（旧保育所を地区の活性化の拠点として利活用）

令和6年度より保育所活用ワーキングチームを立ち上げる。

4月～8月	活用案検討		
9月	活用案とりまとめ	施設運営チーム	地域福祉チーム
10月	住民説明会		住民活用チーム
			貸し出スペースチーム

②パワースポット雄神の発信事業（フィールドスタディ型政策協働プログラム）

令和6年度は東大生を加え、新プロジェクトメンバーで進める。

5月～8月	オリエンテーション・オンライン交流（2回）	・7月～8月現地活動
	文化財・歴史の再確認、現地確認、散策エリア、コース決定	文化財保全、P R方法の検討
9月	R7年度実施に向けスケジュール策定（遊歩道の整備、看板等）	

③デジタル自治会事業（“となみ地域力”推進事業）

4月～6月	「結ネット」申込み、管理者説明会
7月	アプリのインストール及び運用開始
随時	住民説明会（高齢者）



保育所見学



まち点検 雄神神社



山上の池調査 R5.4

フィールドワークにあたって

東大生の皆さんに取り組んでほしいこと

アクションプラン②パワースポット雄神の発信事業

- ・県内の他市町村に類がない文化遺産の保全を図るとともに、地区内外に文化財の情報を発信し、雄神を訪れてもらうことで地域の活性化を図る。
- ・遊歩道、案内看板の整備とトレッキング、ロゲイニング等のイベントを企画する。

○文化遺産の保全策

○文化財の情報発信の方法・・・HP掲載、SNS以外の情報発信等

○誘客の手法・・・トレッキング、ロゲイニング等の企画・立案

○「山上の池」ゼロ磁場の検証



雄神誌 令和2年発行
文化財掲載

山上の池調査 R4.4

※アクションプランのプロジェクトメンバーとの交流会を予定しています。

オンライン交流では、事業進捗状況について説明をしていきたいと思っています。

交流会を通じご質問、ご意見、ご提案等ありましたらお聞かせください。

2024年度フィールドスタディ型政策協働プログラム

空き家の管理周知について

石川県 白山市
企画振興部定住推進室

1. 白山市の空き家対策について（1）

平成22年 7月 過疎化が進む白山ろく地域(旧5村)を対象とした空き家調査を実施

平成24年 3月 石川県宅地建物取引業協会と協定締結（交流・定住相談）
8月 白山ろく地域に空き家バンク制度を導入
12月 町会連合会から空き家対策の要望書を市へ提出

平成25年 1月 市全域での空き家実態調査を実施（第1回）
9月 「空き家対策室」を設置し、問題のある空き家対策に着手

平成26年 4月 庁内に空き家対策連絡調整会議を設置
8月 石川県司法書士会と協定締結（空き家に関する相談）

平成28年 3月 白山市空家等対策計画を策定
6月 石川県建築士会と協定締結（建物調査等に関する協力）
8月 南加賀の自治体と合同で空き家対策セミナーを開催
9月 危険性のある空き家への立入調査に着手

平成30年 11月 石川県宅地建物取引業協会と空き家無料相談会を実施

令和5年 7月 全日本不動産協会 石川県本部と協定締結（交流・定住相談）

1. 白山市の空き家対策について（2）

◆白山市空家等対策計画

1) 計画の期間

平成28年度から10年間

2) 基本的な考え方

『所有者による管理責任』

空き家の管理は、その所有者が自らの責任において適切に行うことを原則とする。

『公共公益の観点からの市の取組み』

空き家の問題は地域社会にまで及ぶため、公共公益の観点から、市が積極的に空き家の問題に取り組む。

3) 3つの基本方針

I 予防・適正管理の推進

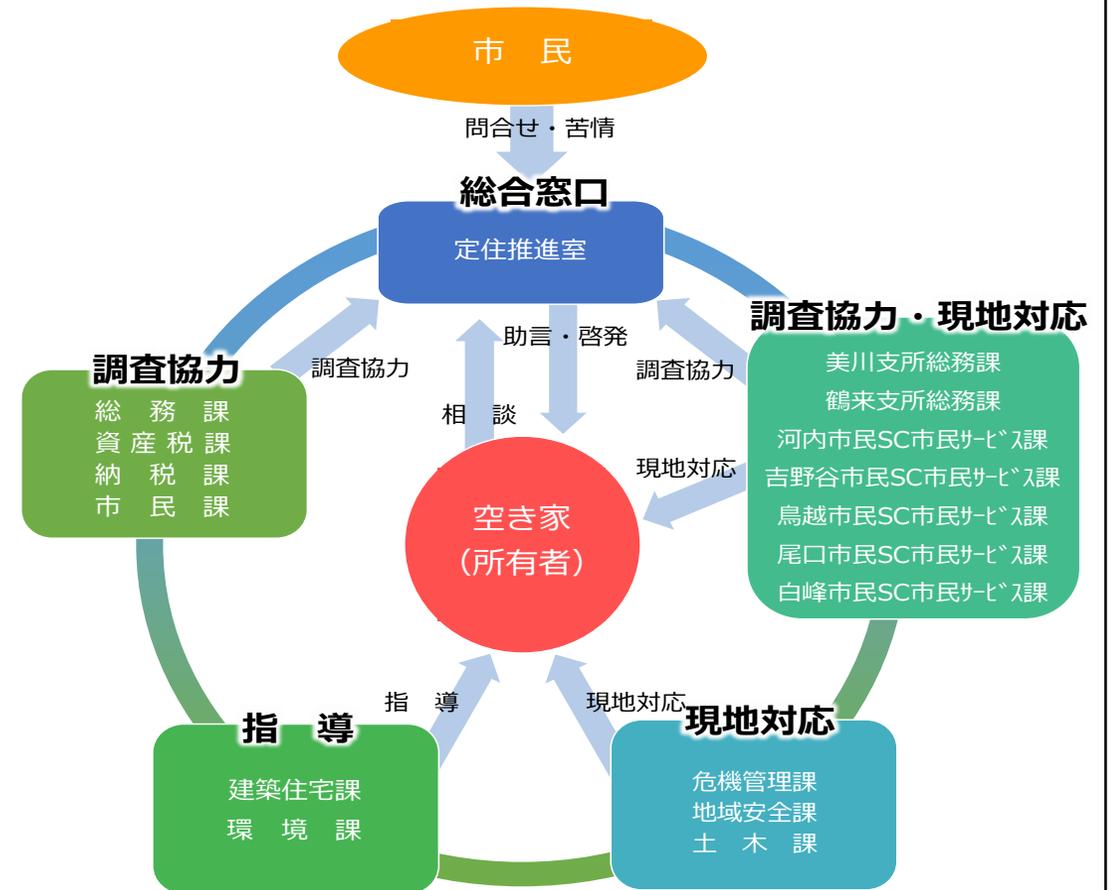
新たな空き家の発生をできるだけ抑制するとともに、対策の基本として、適正管理等の周知を推進します。

II 利活用の推進

使用可能な空き家の有効活用を図るため、利活用の支援を推進します。

III 問題のある空き家の解決

周辺環境への悪影響を解消するために、問題のある空き家に対し、解決に向けた取組みを推進します。



2. 白山市の空き家の現状について

調査内容：空き家の現状を把握するため、全町内会に調査依頼したもの

(単位：戸)

地 域	R5調査		R4調査		差 引 増減数	参考：H25調査		
	空き家数	うち、 問題有	空き家数	うち、 問題有		空き家数	うち、 問題有	
松 任	417	82	411	64	6	18	364	58
美 川	227	48	185	27	42	21	166	38
鶴 来	236	46	213	29	23	17	163	36
河 内	12	2	12	1	0	1	10	5
吉野谷	27	3	25	3	2	0	12	1
鳥 越	39	8	42	7	△3	1	20	2
尾 口	31	9	34	11	△3	△2	13	7
白 峰	7	3	11	3	△4	0	9	1
計	996	201	933	145	63	56	757	148

※問題有とは、家屋等が老朽化して危険性のあるもの、又は雑草繁茂など環境面や不審者侵入のおそれなど防犯面で問題があるもの

3. 空き家対策の啓発

◆空き家バンクパンフレット

空き家バンクの仕組みや登録・利用に関するパンフレットを作成し空き家所有者に送付

◆空き家対策啓発パンフレット

空き家の管理方法や利活用等に関するパンフレットを作成

【主な内容】

- 空き家の相続に関して
- 放置された空き家の問題
- 空き家の法律について
- 空き家の適正な管理について
- 空き家の利活用について

空き家は放置せず…

空き家バンクの はなし

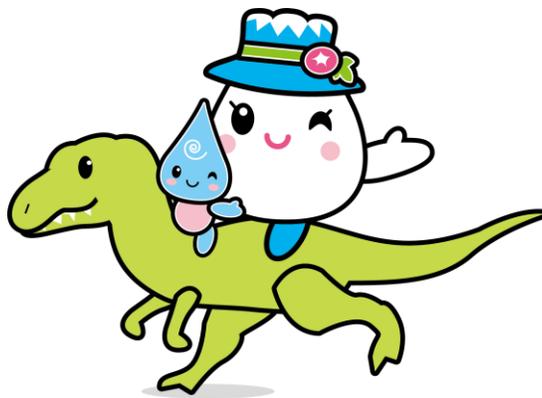


空き家を譲り受けたものの、なかなか有用な活用が
できずいませんか？
使っていないでも固定資産税がかかったり、維持管理も
大変で持て余している方も多いようです。
全国的に空き家の数は年々増え続けている中、管理が
不十分な物件も多く、防災上の問題や倒壊のリスク
などが社会問題化してきています。
空き家は放置せず、活用を考えていきましょう。

白山市



ご清聴ありがとうございました。



白山手取川ジオパーク
ゆきママとしずくちゃん

もし、東京の大学生が
卒業後、石川県能美市に
移住し生活することにな
ったら



～「能美すごし」発見・発掘&
シティプロモーション企画共創プロジェクト～

課題・背景

【課題】

- ・ 関係人口・移住定住人口の増加につながるシティプロモーションの実施

【背景】

- ・ 人口減少、少子高齢化による地域力の衰退（特に里山地域）
- ・ 空き家の増加
- ・ 住みよいまちづくりの推進
（生活環境の向上、子育て支援、働く場の創出・支援等）
- ・ 大都市圏等での低い知名度
- ・ シティプロモーション活動によるコンテンツの増加、発信力の低さ
（交流人口の増加をめざしたシティプロモーション企画が中心）



機 会

- ・ 2024年3月16日…北陸新幹線石川県内全線開業（福井県敦賀延伸）
- ・ 2024年10月～12月…北陸デスティネーションキャンペーン（JRグループ）
- ・ 2025年2月1日、能美市誕生20周年
- ・ 2025年度からのシティプロモーション実施に向けた検討



市役所からの情報発信媒体

- 1 **活字**（広報紙、新聞広報、ポスター、チラシ、地域情報誌、プレスリリース、ホームページ、LINE、X、フェイスブック、インスタグラム、広告、各種アプリ等）
- 2 **映像**（ケーブルテレビ、デジタルサイネージ、プレスリリース、ユーチューブ等）
- 3 **音声**（ラジオ、防災行政無線放送等）

移住関連の主な情報発信



能美市ホームページ「移住・定住」

<https://www.city.nomi.ishikawa.jp/www/genre/1560932876092/index.html>



のみ移住

<https://nomi-iju.org>



学生のみなさんに期待すること

- ・【事前】インターネット等情報により「もし、自分が能美市に移住し生活することになったら」の視点で情報を収集する（イメージを創出）
- ・【現地】能美市移住アンバサダー、市民、市役所担当職員等へのヒアリングにより、イメージをより具体的にする。「すごい！」ことを発見・発掘する
- ・【現地後】「すごい！」ことをまとめ、能美市移住アンバサダー、市役所担当職員等と一緒に、次年度からのシティプロモーション企画を共創する

この取り組みを活かし、
「関係人口・移住定住人口につながるシティプロモーション」
モデルを創出→全国に発信したい！

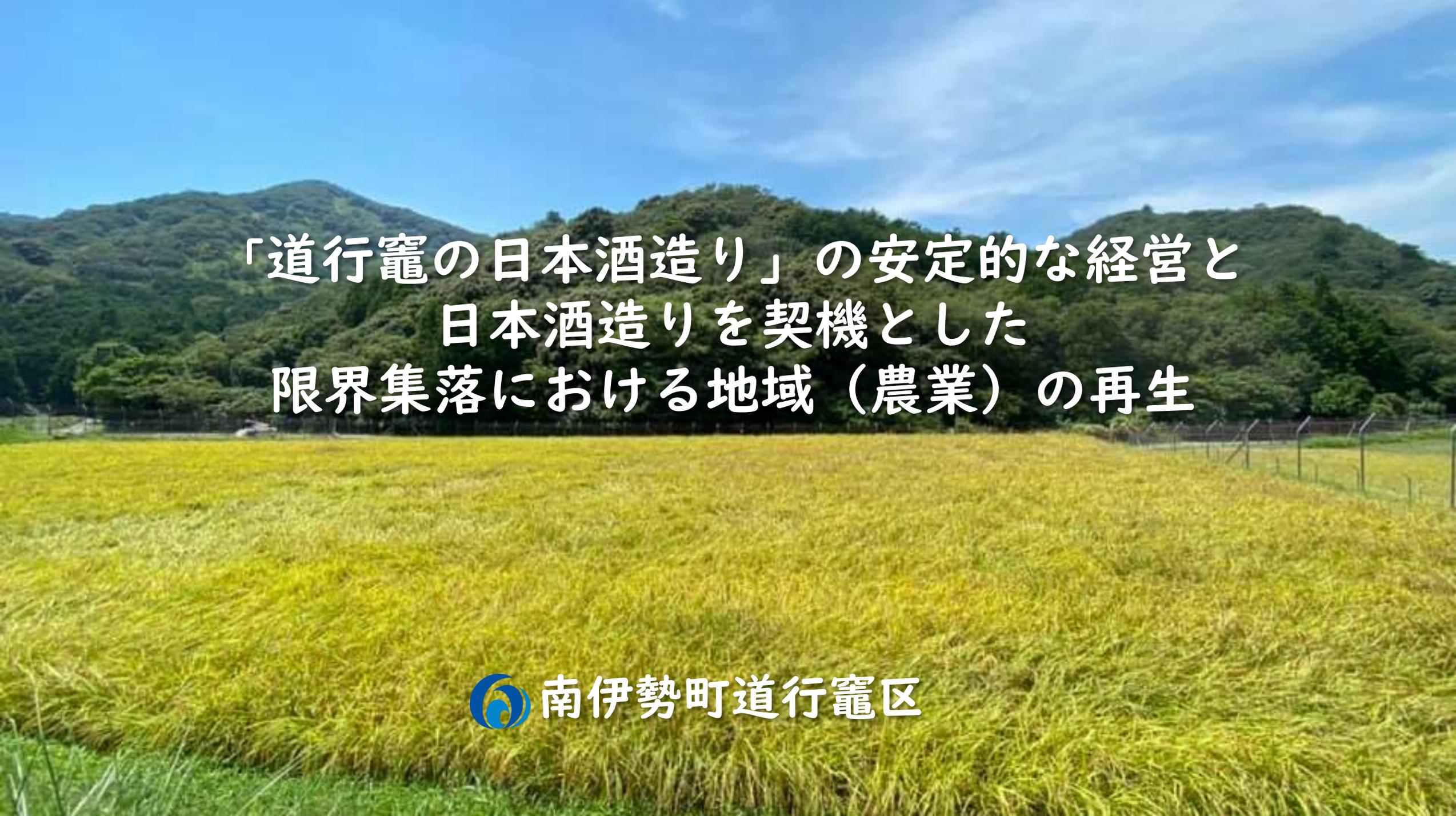


スケジュール



4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R7~
● オリエンテーション		● 能美市担当学生決定	事前学習		● 現地調査 (第1回)	現地調査後 まとめ	企画共創	次年度予算編成へ			● 現地報告会	
		★		★		(首都圏でのイベント参加) (現地調査 (第2回))	★	★			★	

★オンラインミーティング (予定)



「道行竈の日本酒造り」の安定的な経営と
日本酒造りを契機とした
限界集落における地域（農業）の再生

 南伊勢町道行竈区

地域の概要

【南伊勢町】

平成17年に南勢町と南島町が合併

人口・・・ **10,857人**

高齢化率・・・ **53%**

主な産業・・・水産業（漁獲量は三重県**No.1**）
農林業（**温州みかん**、柑橘類等）



伊勢志摩国立公園内の鶴倉園地

【道行竈（みちゆくがま）区】

人口・・・ **34人** (24世帯)

高齢化率・・・ **73.5%**

主な産業・・・ **水稻を中心**とした農業集落

源平合戦のころ、平家の落人が入植したものの、先住者によって既に漁業権が握られていたため、塩竈を造り塩を焼き、わずかな耕地を開いて自活したという「平家落人伝説」が伝わる「南島八力竈」（なんとうはっかかま）の一つ



道行竈の田んぼ



道行竈の入り江

地域の現状と課題

- 人口減少、高齢化に伴い米作りを担う人材が減少し
耕作放棄地が増加
- さまざまな観点から地域農業の再生について考え、地域の土地利用、竈方文化、農村景観の活用など
一体的なシステムのモデルを構築したい



- 南伊勢町と皇學館大学が締結した包括連携協定の一環として、**日本酒プロジェクト**が始動。地域住民を中心とした有志により「**チーム道行竈**」が結成され、道行竈の酒造りが始まった。



- 安定的な経営に向けて**経営改善**や**販路拡大**に向けた取組みが必要

これまでの活動



東大FSの提案から
始めました

- ・伊勢市「だいどこ市」
(月1回)での販売
- ・オンライン販売

2024年 農業ボランティアの受入れ



具体的なプログラム

【東大生に期待したいこと】

- 日本酒の**販路拡大**や**経営改善**のためのアイデアの検討と実行
- 現地活動に加え、**首都圏や東大をフィールド**にした道行竈の取組みの**情報発信**
- 歴史・文化・自然などの**地域資源を活かしたプロモーション**の提案
- 人手不足を魅力に変える「**田作り・草刈り**」で**人を呼ぶ**仕組みの提案
- **竈方集落の歴史**を次世代へ繋ぐ先進的なアプローチの提案
- 道行竈の活性化を目指し、次の10年に向けた**アクションプラン**の作成

さらに・・・

- 道行竈の取組や、それを含めた「**地域システム**」が**持続可能な形で継続できるようなアイデア**の検討と着手

具体的なプログラム

活動月	活動内容
6月～8月	草刈り、地域住民との交流（現地活動 候補①）
8月～9月	稲刈り、草刈り等の農作業（現地活動 候補②）
12月上旬～中旬	新酒の販売準備（現地活動 候補③）
2月上旬～中旬	田んぼの石拾い、現地報告会

※現地活動日：①～③のうち、いずれか2つを学生の皆さんと打ち合わせで決定

地道な農作業も含めて体験していただき、道行竈の持続可能な仕組みをご提案いただければと思います。

離島地域におけるアウトドアの可能性について



三重県鳥羽市

離島地域（神島・答志島・菅島）

地域の概要

桃取地区

496人
247世帯

答志地区

914人
331世帯

答志島

- ・伊勢湾最大の島、三つの集落で構成
- ・漁業が盛んで、若い漁師も多い
- ・県下でも有数の漁獲量を誇り、魚種も漁獲量も豊か
- ・島の女性たちが島の旅をプロデュースする「島の旅社推進協議会」が活躍
- ・「寝屋子制度」など島ならではの文化や風習が残る

和具地区

338人
158世帯

菅島

464人
213世帯

- ・本土から約3 k m離れた鳥羽の離島の中で2番目の大きさ
- ・伊勢志摩を代表する海女の祭り「しろご祭り」を毎年7月開催
- ・日本最古のレンガ造りの洋式灯台「菅島灯台」が現存
- ・小学生が「島っ子ガイド」として、観光客に島の魅力をPR

坂手島

254人
181世帯

- ・本土から約600m沖合いに浮かぶ小さな島
- ・伊勢の地に天照大神を祀った皇女・倭姫命が都からアヤメを持ってきて植えたと言われるアヤメ池が見どころ
- ・鳥羽市水産研究所の施設があり、種苗の研究、海洋調査、藻場再生などに取り組む
- ・江戸川乱歩の妻・隆の出身地



神島

288人
143世帯

- ・本土から約14 k m
- ・離れた伊勢湾の入口に浮かぶ小さな島
- ・漁師が多く、潮の流れが速い海で育ったタコは美味しい
- ・三島由紀夫の小説「潮騒」の舞台



三重県鳥羽市

【人口】
16,838人、8,239世帯
(令和5年12月末現在)

【地勢】
面積：108.03km²
三重県東端の太平洋側に位置し、海岸線まで山地が迫るリアス式海岸が形成される

半島部や有人離島で構成
【交通アクセス】
東京－名古屋 新幹線／約1時間40分
名古屋－鳥羽 近鉄・JR／約1時間半
※大阪、京都から近鉄電車で約2時間半

漁業と観光と地域課題

漁場と学び場と遊び場のすみわけの具体化が必要

- ・鳥羽の観光の魅力は「食」。漁業の衰退は観光の衰退につながる
- ・海女が潜る海。密漁警戒を地域は意識
- ・受け入れ態勢を要件等。オーバーツーリズムを避ける
- ・島民の足である市営定期船はある程度の乗員が必須

具体的な活動と期待

試す

とにかくできるだけいろんなアクティビティを体験

聞く

地域の人に話を聞きに行く

調べる

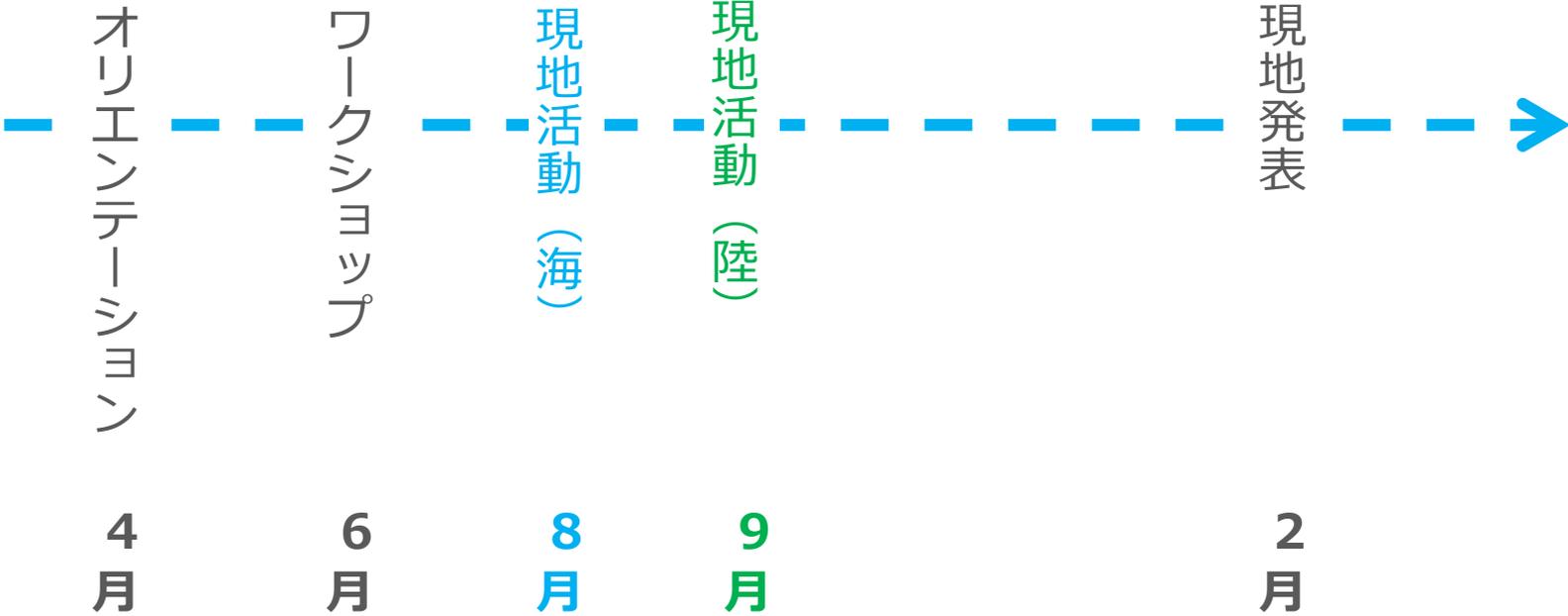
地域のこと、他地域に事を調べる

提案する

試し、聞き、調べたことをまとめ地域へ提案

学生の若い視点と日常の学びを提案に活かしてください！！

スケジュール感



ENJOY  TOBA



滋賀県長浜市田根地区

田根地区を訪れた大学生が
継続して関わるための仕組み作り

滋賀県長浜市地域おこし協力隊 堀田雅史

滋賀県長浜市 田根地区 概要

世帯数：557世帯 ※1

人口：1,424人 ※1

自治会数：14

高齢化率：42.28% ※2

※1 長浜市HP「令和5年10月1日の人口と世帯数」引用

※2 長浜市HP「長浜市地区別高齢化率」引用

田根地区と大学の歴史

- 2007年 田根地区地域づくり協議会 設立
慶應義塾大学 交流を開始
- 2008年 田根地区・地域づくり計画書 策定
- 2020年 新型コロナウイルス感染症 流行
- 2021年 東京大学FS 受入
滋賀大学 フィールドワーク 受入
- 2022年 専修大学 フィールドワーク 受入
- 2023年 早稲田大学 地域連携ワークショップ 受入
京都橘大学 クロスオーバー型課題解決プロジェクト 受入
インカレ型サークル Hatsugaプロジェクト 開始
- 2024年 立正大学 フィールドワーク 受入(予定)



テーマ設定の背景

2007年から田根地区には多くの大学生がフィールドワークで訪れている。しかしながら、卒業と同時に関係が切れてしまうケースがほとんど...

ミッション



過去の取組把握

過去に田根地区に携わった貴校OB・OGや、他校の現役大学生・OB・OG等がどのようなことをしていたか把握してください



原因分析・提案の検討

OB・OGへのインタビューや、フィールドワークを通じて地域資源を把握し、ボトルネックの解決案を検討してください

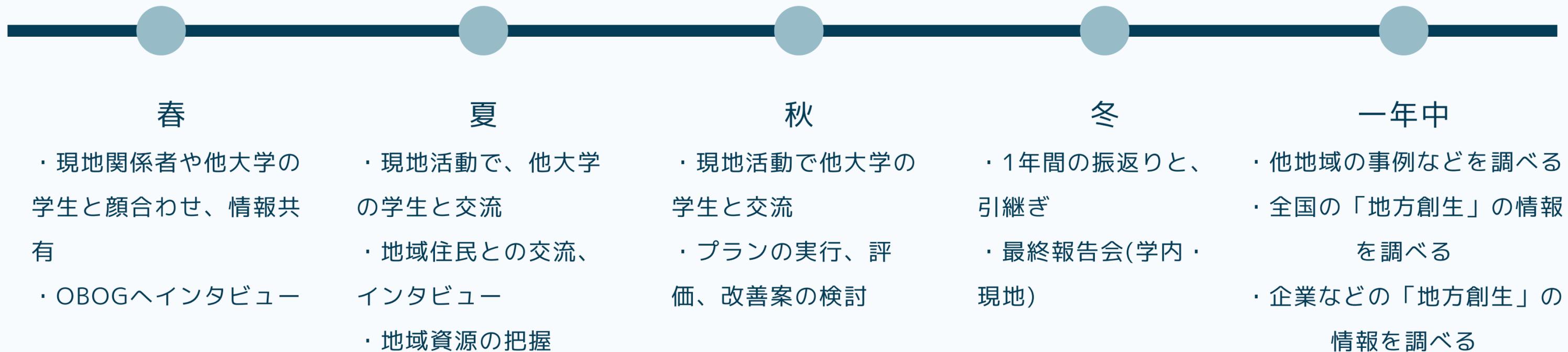


提案の実行

皆さんが考えた解決案を実行してみて、より持続可能な取り組みになるようにブラッシュアップしてみてください

タイムスケジュール

～アクションプラン～



地域や他大学との交流を通じて、
新しい発見をしましょう！

2024年度フィールドスタディ型政策協働プログラム（FS）

美浜の資源を活用して 関係人口を創出

美浜町ってどんなまち？



- 人口 6,423人 (令和6年2月)
- 面積 12.77㎡
和歌山県内で2番目に小さな町
- 新大阪 ⇄ 御坊
約1時間45分 (車や電車)
町内に駅・高速道路はありませんが、
隣市 御坊市の『御坊駅』『御坊IC』まで
車で約10分という距離です。



歴史・観光スポット



煙樹海岸キャンプ場

- 通年営業
- 全区画フリーサイト、予約不要
- 目の前に広がる太平洋と木漏れ日の中でキャンプを楽しめる
- 炊事棟、シャワールームなど有
- 日帰りBBQや連泊可能



煙樹ヶ浜

- 近畿最大? 松林（全長4.5km）
- 江戸時代から「御留山」として伐採を禁じられており、土地の人々により今も保護されている
- 近藤浩一路画伯がこの景色を描いた「煙樹カ浜」が名前の由来



カナダミュージアム

- カナダ移民の歴史を学べる場
- 旧野田家住宅（国登録有形文化財）をリノベーションした建物
- 現在はカナダとの交流の拠点となっている
- カフェメイプルが併設

課題1 『観光客へ町の周知を』

	美浜町	御坊市	日高町	由良町	印南町
観光客総数	26,491	246,984	197,660	363,151	602,907
日帰り	18,207				
宿泊	8,284				

近隣市町と比較すると、非常に少ないです…

新たな町の魅力の発掘やPRについて

ご提案をお願いいたします。

課題2 『町民がもっと町を好きになるように』

日系カナダ移民の
歴史を知らない…

煙樹ヶ浜って
どこにでもある
海でしょ？

イベントとか
してたんだ…
知らなかった

特に
若者！

町民自身が町への関心を持っていない…

観光客が楽しむのはもちろん！だけど
町民も町を楽しめる仕組みのご提案をお願いいたします。

スケジュール

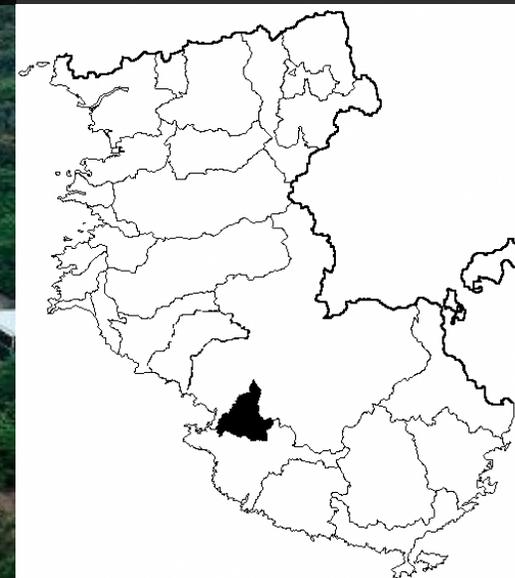
2024年6月～2025年3月

6月中	オンラインMTG
6月～7月	他地方の情報収集
8月～9月	現地活動① (アクティビティ体験・町散策→ワークショップ)
	オンラインMTG
10月～12月	現地活動② / オンラインMTG
1月～3月	現地報告会 (パネルディスカッション)



上富田町
KAMITONDA TOWN

スポーツによる地域振興と ウェルネスタウン構想



上富田町の概要

人口 15,712人
世帯数 7,455世帯

【令和5年3月1日現在】



【特徴】

中央部を清流・富田川が流れ、世界遺産の熊野古道(参詣道)が所在。『スポーツによるまちづくり』に取り組む自治体として知られる。

【スポーツに関するこれまでの取組】 ～主に来町者増に寄与するもの～

スポーツセンター(H7開設)、 口熊野マラソン(H8～)、
合宿誘致 など

【課題設定の背景】

①スポーツセンターは施設のグレードが高く、町のみならず紀南地域のスポーツ拠点

→町外の方の利用が増えることで、まちの賑わいや地域経済の活性化が期待される

②かみとんだウエルネスタウン構想を掲げて、現在、町民の生涯スポーツを振興

→スポーツと関わりを持つ住民が増えることで、町民の健康増進・介護予防をはじめ、まちづくりにおける住民の参画が進むと期待される

上富田スポーツセンターの概要



年間利用者 約 12万人

主要施設

野球場 / 球技場（天然芝） / 室内練習場 / テニスコート / グラウンド（天然芝・人工芝） / スポーツサロン（トレーニングジム）



利用団体

ラグビー…日本代表（男子、女子）
サッカー…日本代表（女子）、横浜FC
野 球…プロ野球公式戦（2軍戦）

上富田スポーツサロン

定期的な運動習慣から本格的なトレーニングまで

対応可能（プロスポーツ選手の合宿でも利用）

利用時間 9：00～22：00

定休日 毎月第3金曜日

通所型介護予防教室

対象者 65歳以上の方、
介護保険要支援認定者

開催日 週1回（月曜日） 送迎サービス有り

利用料 無料

内容 トレーニング器具を活用したストレッチ、
筋力アップトレーニング 等

スポーツサロンを活用した 住民の健康増進



■課題

【町外】 **スポーツセンターの利用人数の減少、平日利用の低迷
合宿等誘客対策**（閑散期、平日利用 等）

【町内】 **スポーツジム利用者の伸び悩み
住民の健康増進対策**（スポーツジムの利用 等）

■学生の皆さんに期待すること

【町外】 スポーツセンターの利用者が増える**イベント、スポーツ施策の提案**
（イベント：障害者スポーツはもとよりeスポーツなどの分野も可）

【町内】 住民の**スポーツとの関わりを高める企画の提案、
健康増進の啓発**



事業スケジュール（予定）

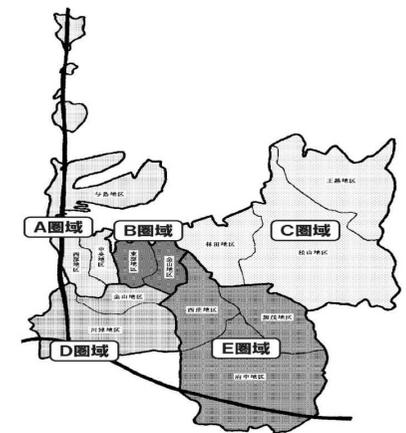


Sakaide, Kagawa

坂出市の概要

- 01 人口が約5万人
- 02 瀬戸大橋の四国側の玄関口
《3つの島(橋でつながっている)がある》
- 03 日常生活圏域は5圏域
- 04 高齢化率が約35%
《市街中心部は33.8%、市街から離れると38.4%となり、地域差がみられる》
- 05 関係機関からの認知症に関する相談件数の増加

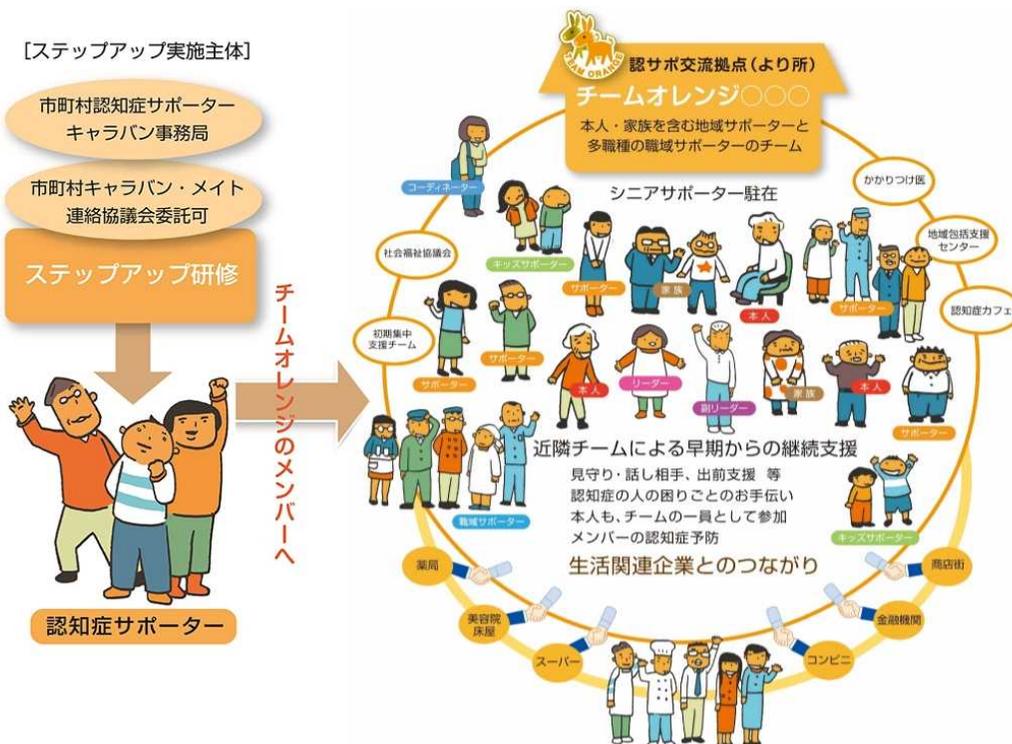
「チームオレンジ」の結成を通して
認知症のかたを支える地域づくりを行いたい



「チームオレンジ」とは

本人、家族、認知症サポーター等が中心となって、認知症のかたの見守りや支援を行う活動です。本人もメンバーとして参加します。

- 01 認知症のかたや家族の困りごとに対する相談や支援
- 02 認知症のかたのやりたいことのお手伝い
- 03 認知症のかたが活躍できる場を提供



チームオレンジの3つの類型

第1類型

共生志向の標準タイプ

活動拠点を設置して活動
(ex.市役所、公民館)

第2類型

既存拠点活用タイプ

既にある地域資源を活用
(ex.認知症カフェ、介護予防教室)

第3類型

拠点を設置しない個別支援型

拠点をつくらずに支援を行う
(ex.健幸ウォーキング、自宅訪問)

坂出市の取組み

01 認知症のかたや
その家族が交流できる場

認知症カフェ
「さかいでオレンジ
かふえ」

認知症のかたやそのご家族が交流できる場
さかいでオレンジかふえ

認知症のかたやそのご家族が専門職（介護福祉士や看護師など）に相談したり、本人・家族同士が情報交換したり、地域住民と交流ができる場所です。どなたでも参加できますので、お気軽にご参加ください。

原町南郷 〒764-0202 原町南郷2丁目1番地4号2階 TEL: 0874-56-0502	家原南郷 〒764-0202 家原南郷2丁目1番地4号2階 TEL: 0874-56-0502	かけ橋しCafe 〒764-0202 かけ橋し1丁目1番地4号2階 TEL: 0874-56-0502
よりあち カフェ 〒764-0202 よりあち1丁目1番地4号2階 TEL: 0874-56-0502	カフエ かふえ 〒764-0202 カフエ1丁目1番地4号2階 TEL: 0874-56-0502	カローレ 〒764-0202 カローレ1丁目1番地4号2階 TEL: 0874-56-0502
お茶室 カフェ 〒764-0202 お茶室1丁目1番地4号2階 TEL: 0874-56-0502	お茶室 カフェ 〒764-0202 お茶室1丁目1番地4号2階 TEL: 0874-56-0502	お茶室 カフェ 〒764-0202 お茶室1丁目1番地4号2階 TEL: 0874-56-0502

認知症のかたやご家族の相談・交流などで集まれる場所 ご家族のかたは介護の想いをわかり合える人と出会う場所 認知症のかたが自ら活動し、楽しめる場所

02 認知症のかたなど
地域住民が参加できる場

さかいで健幸まつり
& 介護の日

どなたでも参加無料
※会場には移動車を用意しております。
※イベント会場は予約制です。

健幸コーナー
健康づくりをすすめる市民の会

- ・健康づくりをすすめる市民の会
- ・パラスポーツの体験、朝食コンテスト
- ・ベジチェック
- ・血圧年齢測定

会場：1階ロビー

介護予防コーナー
転ばないからたづくりのため、やってみよう♪

- ・TUGテスト
- ・開眼片足立ち
- ・血圧、握力、身長体重測定
- ・体組成測定(先着60名)
- ・2ステップテスト
- ・立ち上がりテスト
- ・オーラルフレイルチェック

会場：2階大会議室

リフレッシュヨガ
ヨガを通して心も体もリフレッシュしてみませんか？

- ① 9:30~10:00 (15名まで)
- ② 10:30~11:00 (15名まで)
- ③ 11:30~12:00 (15名まで)

※動きやすい服装で、各自飲み物を持参してご参加ください。
※当日受付(先着順)

会場：3階中会議室2

骨密度測定
骨足になって筋力に測定できます。

会場：3階小会議室1

2023. 11月18日(土)

5:00~12:00(受付は11:30まで)

主催：坂出市けんこう課、かいご課
健幸まつり：けんこう課 ☎44-5006
介護の日：かいご課 ☎44-5001

会場：坂出市役所(坂出市役所2階第2会議室)
※駐車場に限りがありますので、お車の方は徒歩や自転車等
介護の日：かいご課 ☎44-5001

03 認知症への理解を
深め、啓発する活動

世界アルツハイマー
デー in さかいで



04 認知症への理解を深め
地域でともに暮らしていく
方法を学ぶ講座

認知症サポーター養成講座
認知症サポーターステップ
アップ講座
市民後見人養成講座

実績(R6年2月末時点)

- 01 認知症サポーター養成講座(計4,844名)
- 02 認知症サポーターステップアップ講座(計82名)
- 03 市民後見人養成講座(計32名)

目的

認知症のかたや家族が安心して暮らせる地域づくり

現状

- 01 ▷▷ 運転免許証返納に伴う家族間のトラブルに対しての相談の増加
- 02 ▷▷ ものとり妄想による相談の増加
- 03 ▷▷ 徘徊の相談件数の増加
- 04 ▷▷ 新聞だまりの連絡の増加
- 05 ▷▷ 虐待件数の増加
- 06 ▷▷ 認知症初期集中支援チームの相談件数の減少

コロナ渦で施策が一部制限された結果、地域社会の支え合い機能の衰退が顕在化

目標

- 01 ▷▷ 認知症のかたや家族が相談できる場所や気軽に利用できる場所をつくる
- 02 ▷▷ 認知症になっても役割をもち、そのかたらしい生活が行えるようにする
- 03 ▷▷ 地域住民の認知症への理解が深まり、適切な支援を理解することができる
- 04 ▷▷ 地域住民が、認知症のかた等と自らのできる範囲内で支援や活動を行っていく

学生にお願いしたいこと

新しい視点

- 01 理論的な発想
- 02 クリエイティブな発想

地域力の再生

- 01 地域住民のもつ経験・実践
- 02 地域のもつ潜在的な力

新たな価値

- 01 坂出市の課題を解決する新たな認知症施策
- 02 新たな地域資源の発掘

『ゼロベース』から、学生・住民とともに高齢者を支える地域づくりを行っていききたい

学生とのスケジュール

5月 オンライン会議(事業説明)

6月 オンライン会議(課題分析)

7月 オンライン会議
(フィールドワーク実施前の打ち合わせ)

7月 フィールドワーク実施
(チームオレンジの運営参加・交流)

8月～9月 オンライン会議(今後の共有)

10月 オンライン会議
(フィールドワーク実施前の打ち合わせ)

11月 フィールドワーク実施
(チームオレンジの運営参加・交流)

12月 オンライン会議(中間報告)

1月～3月 オンライン会議(最終報告)

住民とのスケジュール

3月 顔合わせ

4月～6月 チームオレンジ結成に向けての
話し合い(数回実施)

7月 チームオレンジの活動(1回目)

8月～10月 振り返りおよび次回の活動に向けて
の話し合い(数回実施)

11月 チームオレンジの活動(2回目)

12月～2月 振り返りおよび次回の活動に向けて
の話し合い(数回実施)

3月 来年度の活動について

学生・住民の意向を最重視して
進捗を支援していきたい

*スケジュールは大きく変更する可能性あり

私たちと一緒に
小豆島の未来を考えよう



島の高校生が地域と共同し
小豆島の未来を切り拓く

權風プログラム

權風コンソーシアム(仮)

土庄町×小豆島町×県立小豆島中央高校×中小企業家同友会×島の未来プロジェクト×(学)穴吹学園

×大学生

難読地名！？読めますか

① 小豆島

しょうどしま

② 小豆郡

しょうずぐん

③ 土庄

とのしょう

④ 豊島

てしま

⑤ 小豊島

おでしま

⑥ 櫛風

かいふう

日本三大醤油

日本三大そうめん



日本三大溪谷美

日本1位ごま油

小豆島

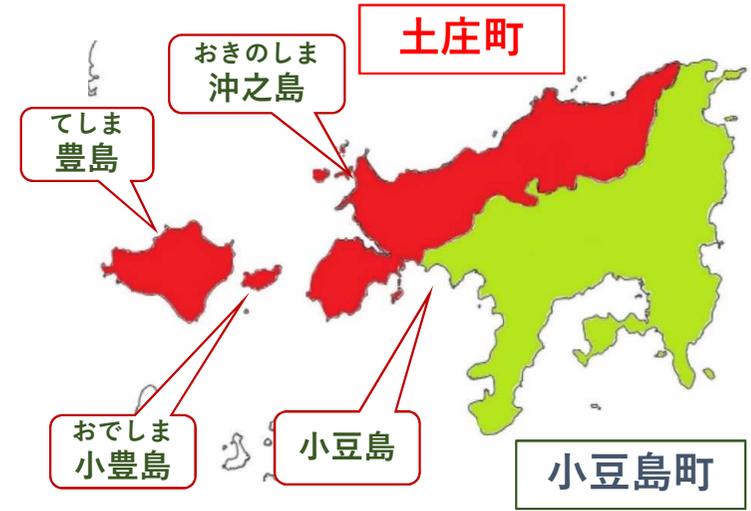
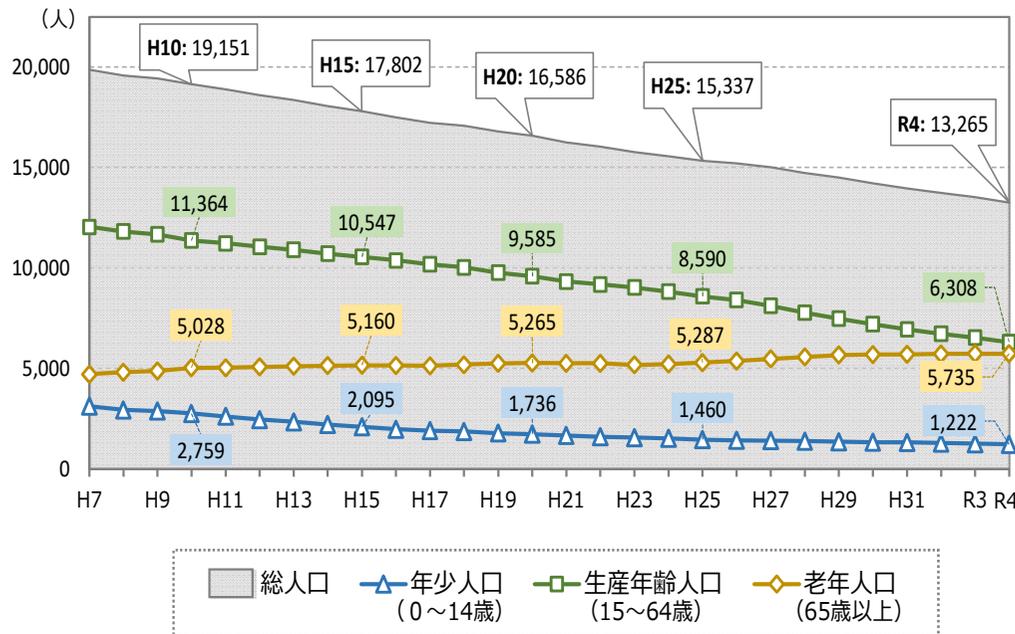
世界一土渕海峡

日本1位オリーブ

基準点標石の生産



土庄町を例に【年齢3区分別人口の推移】



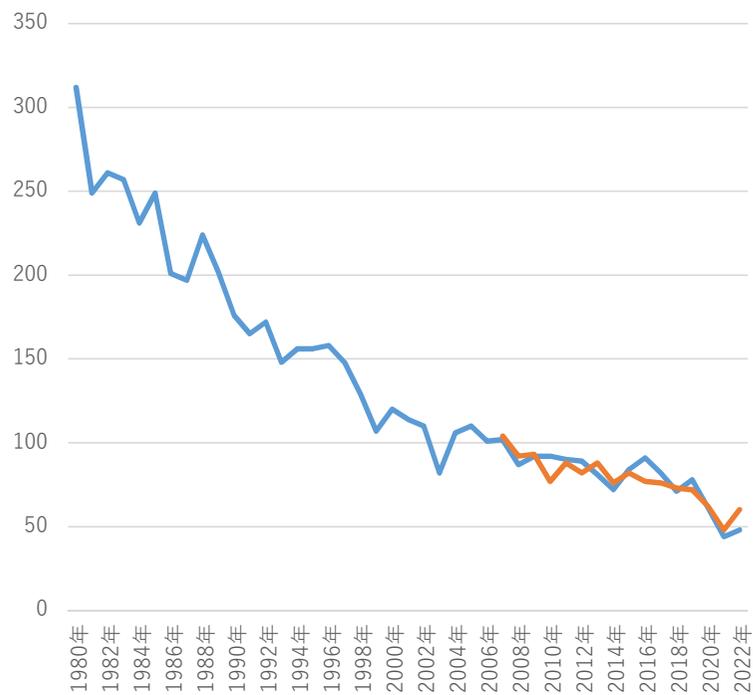
【土庄町】 11,996人
 【小豆島町】 12,922人

<香川県人口移動調査報告 令和6年2月1日現在推計>

典型的な田舎&離島ですが・・・

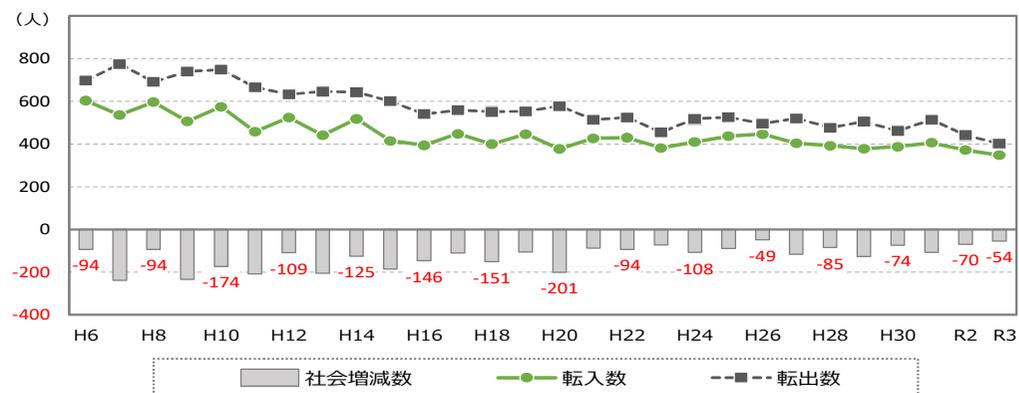


【小豆郡の出生数の推移】

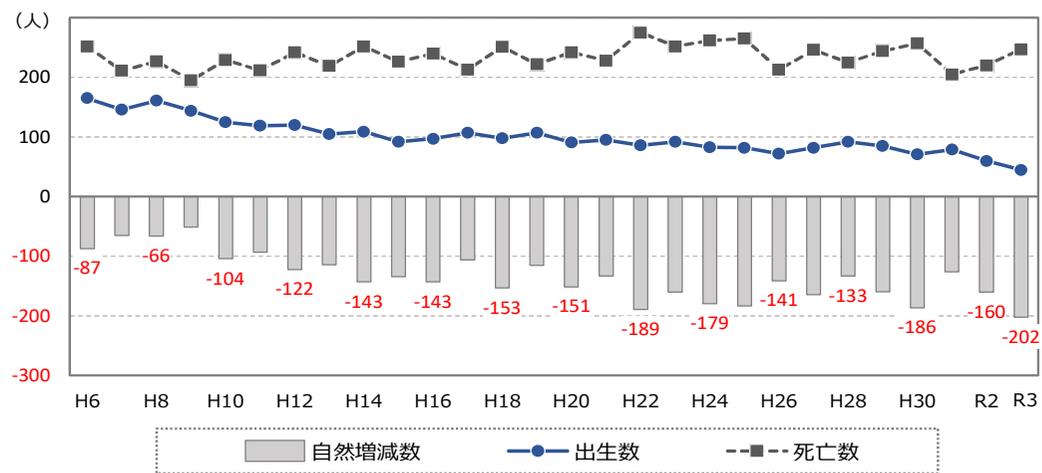


— 土庄町 — 小豆島町

【土庄町の社会増減の推移】



【土庄町の自然増減の推移】



資料：総務省「住民基本台帳」

※H6～H24は各年4月1日～翌年3月31日、H25～は各年1月1日～12月31日

權風プログラム



高校 → 小豆島中央高校でしかできない学びを魅力的な高校へ

企業 → 人材育成、地元の産業を伝えたい

地域 → 高校生・大学生の活力を地域活性化に活かしたい

大学等 → 産官学連携や過疎地域・離島地域の研究

役場 → 地域課題を若者と共有したい
地元高校を魅力ある社会インフラとして維持していきたい



スケジュール

- 4月 インプット
- 5月 権風コンソーシアム（仮）の始動
- 6月 事前交流・課題設定<オンライン>
- 7月 現地活動（1回目）
ワークショップ<29日（月）>
- 8～9月 オンライン会議など（随時）
- 10～12月 現地活動（2回目）
- 3月 報告会
<高校生による政策発表会も現地参加可能>





Teens market 2024

考え、工夫し、応用できる
人材づくりを目指します

高知県土佐市企画財政課
kikaku@city.tosa.lg.jp

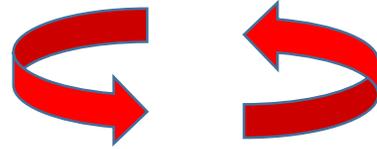
今回の取組に至った経緯

理論

- ・あるものに対する、知識の深化
- ・深化により見えてきた課題や分析

例えば人口減少、高齢化、歴史、文化など無限に存在するもので、大学等でも研究が盛んであり、経営学で言うと、戦略・財務・会計・マーケティング組織などの理論知識が存在している。

理論から実践



実践から理論

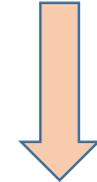
実践

- ・理論を理解したうえで、現実で問題解決を行う上での知識

どの分野でも必要となる行為であり、いずれ社会人になるのであれば、いつ経験しても良いものと認識

市内中学校

理論学習の授業



実践学習の機会

強化したい部分

(現状と課題)

- ・売価－仕入＝売上（利益）をわかりやすく理解する説明や決まったワークシートがない。
- ・指導者は、理論に関する知識が不足している方もいるため、中学生にどう指導したらよいかわからない。
- ・単発の取組が多く、新たに実施する際も1から構築するため指導者の負担が大きい。
- ・取組した結果の課題や解決策が共有できていない。等々

理論学習と実践学習の橋渡し

生徒×地域×学校の新たなモデル事業の模索

Teen Market2023 概要

今年は、東大FS2年目の年です。

スケジュール	実施した内容	東大FS生 作成
#1(9月)	役職の説明・役職決め 出店内容の決定	教材、ガイド
#特別編(〃)	出店企画書の作成	教材
#2(10月)	仕入れ交渉 予算の作成	教材、ガイド
#3(11月)	マーケティングオペレーションと事例	教材、ガイド
#4(〃)	作業編 チラシ、POPの作成など	なし
#5(12月)	Teens market本番	教材
#6(3月)	振り返り、現地報告会	教材

教材…中学3年生が使用 / ガイド…地域の指導者が使用

#2,#5,#6は、東大FS生と中学生の対面形式のためガイドはなし

#4は、#3教材、ガイドを参考に作業したため、教材、ガイドはなし

2023の活動内容

参加してくれた中学生から、土佐市の特産品を使ったお弁当、フルーツサンドを販売したい意見がありました。土佐市のイベント(参加者150名うち半分程度は土佐市外か県外)で100食のお弁当を販売しました。

「むすび食堂」と、高中生が考案のお弁当
「たかおか食堂」がコラボしました！

むすび食堂
×
たかおか食堂

高岡中学校の生徒が考案した土佐市の産品を中心としたお弁当を限定販売します。

日時 12月2日(土) USAくろしおセンター
場所 一般の方 12時から
フォトログ参加者 13時から 限定50食ずつ

同日開催の土佐市フェートロギング2023で販売します。イベント参加者以外の方でも購入できます。

わっば弁当(肉) ~メイン~
鶏の甘辛だれ
かぼちゃコロッケ
¥900
限定50食

わっば弁当(魚) ~メイン~
鯛の甘酢あんかけ
鯉コロッケ
¥900
限定50食

※写真はイメージです

お問い合わせ：土佐市企画財課 TEL:087-852-7609 メール:kakaku@city.tosa.lg.jp

教材とガイドの作成(2023東大FS生のコメント)

教材作成の改善点

- ・実際にリアルタイムで参加していないので、使用感のイメージが湧きにくく内容や構成が終始手探りの状態になってしまった
- ・教材の提出が話し合いの直前になったことが複数回あった
- ・教材のコンセプトがブレてしまうことがあった

次年度以降に向けて必要な取り組み

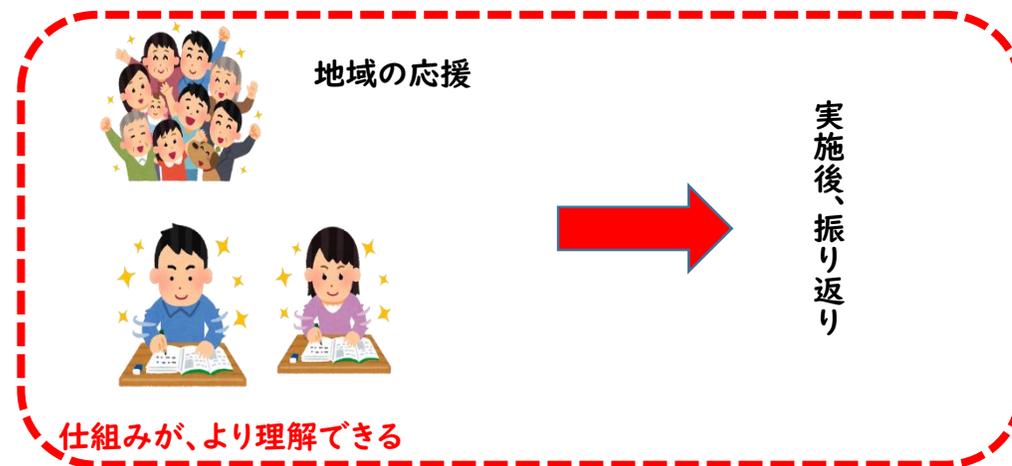
- ・FS学生も話し合いなどに参加していく必要がある
- ・早めに作成し関係者と教材について話し合いタイミングがあると良い
- ・このイベント一連のコンセプトを議論して納得する必要がある

教材とガイドの作成(土佐市から見たコメント)

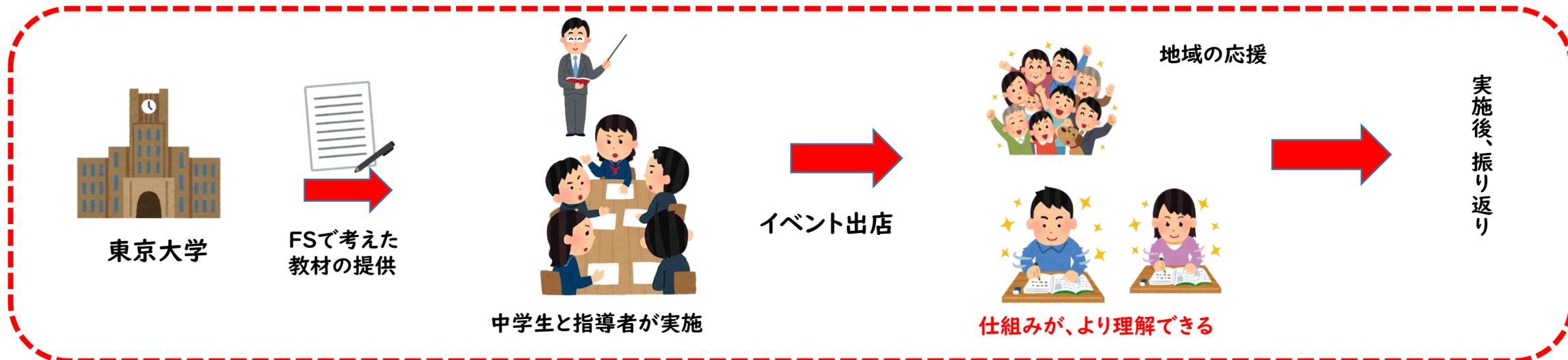
- ・作成いただいた教材やガイドのコンセプトを聞く機会が少なかった
- ・中学生は、我々、大人の意見よりも東大FS生からのコメントに耳を傾けていたし、FS生に興味深々

東大FS生にご協力いただきたい内容

2023年度…教材づくり、ガイドの作成、出店販売



- 2024年度
- ①2023年に作成いただいた、教材・ガイドの解説動画の作成
 - ②新たな教材づくり、ガイドの作成（銀行からの借入書、仕入先依頼書、接客マナー）
 - ③中学生向け、参加募集のチラシの作成



※2023年度と2024年度で変化した点

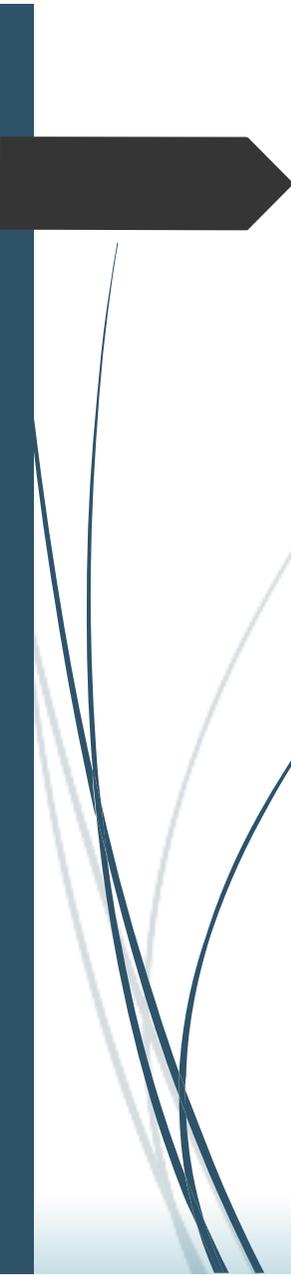
「この活動を通じて我々も成長したい」と思っています。

前年度の課題を改善する「試行錯誤型」の、変化しつづける取組でありつづけたい
中学生が参加する授業の2週間前には、教材・ガイド・動画など必要なものが提供されている状態で、授業前に最低1回オンライン会議を行うスケジュールを予定しています。※参加グループ内でどなたかがご参加頂くよう調整頂いてかまいません。

東大FS生も、中学生も、市役所も、縦のつながりを作っていく

昨年度作成いただきました教材・ガイドを基に作成いただく解説動画は、2023年参加FS生に確認しながら、作成をお願いします。2024年度に新たに作成する教材・ガイドにつきましては、相談しながら作っていきましょう。

本日は貴重な時間をいただきありがとうございました。
皆さまのご参加をお待ちしております。



五島列島北部地域への移住促進と 佐世保市宇久地域の活性化

長崎県 佐世保市宇久行政センター 産業建設課

五島列島北部地域への移住促進と佐世保市宇久地域の活性化

1 各地域概要

宇久地域（佐世保市）

面積約26.3km²、人口1,888人（R2.10.1時点）、平均年齢63.4歳。

- ・畜産業（繁殖牛）が盛んなほか、宇久ならではの生活が体験できる民泊を活かした観光や、ワーケーションによる移住定住の取り組みを推進
- ・フェリーで佐世保市だけでなく福岡県にもアクセス可能で福岡からの所要時間が他島より短い
- ・西海国立公園の美しい自然と五島文化の始まり、捕鯨・海士などの歴史ロマンあふれる島

小値賀町

面積25.53km²、人口2,288人（R2.10.1時点）、平均年齢59.2歳。

- ・子どもは島の宝「小値賀町ふるさと留学生」で子どもたちの移住も受け入れ
- ・古民家を活用した「古民家ステイ、古民家レストラン」
- ・懐かしい日本の風景が残る「日本で最も美しい村」にも選出された島

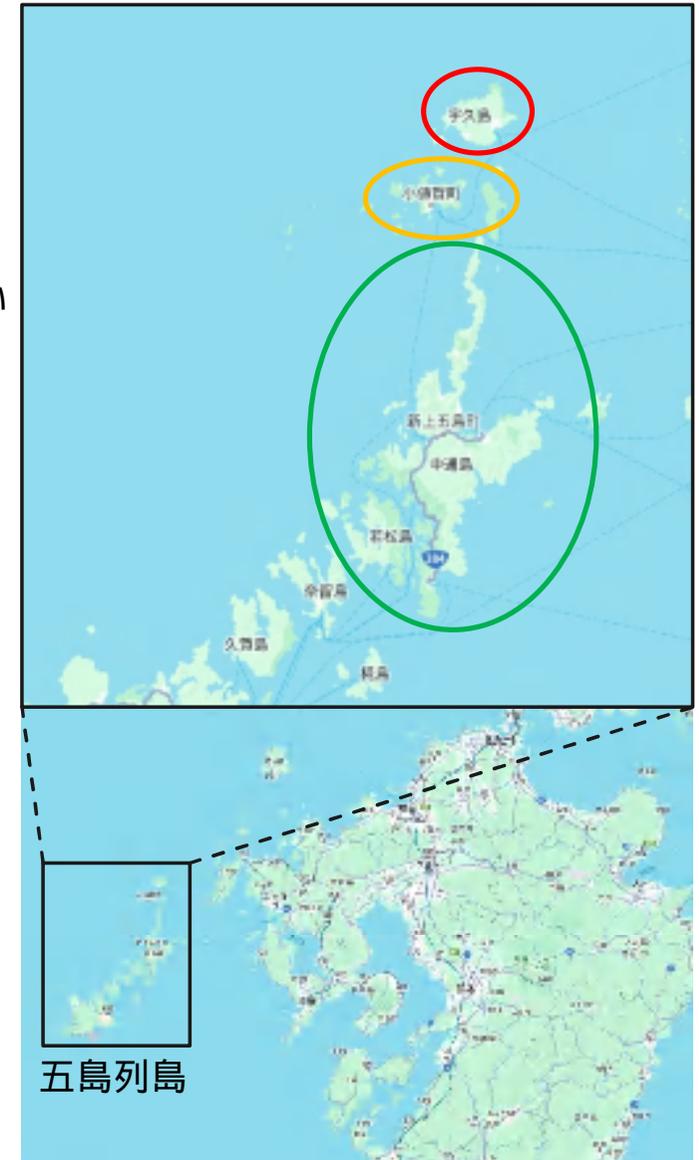
新上五島町

面積213.99 km²、人口17,503人（R2.10.1時点）、平均年齢56.4歳。

- ・雇用の確保や若者の移住定住の取り組みを推進
- ・子どもの育ちを支える「放課後子ども教室」、「しま留学制度」など多彩な支援
- ・歴史的遺産や教会などの文化遺産が多数存在する祈りの島

2 取り組み課題

学生の皆様には、首都圏での 移住促進 と、 地域活性化 に取り組んでいただきたい。



五島列島北部地域への移住促進

3 取り組み内容

移住促進について

本市では、令和6年度より、行政区が異なる近隣離島である「小値賀町」と「新上五島町」と連携し、スケールメリットを活かした移住促進に係る取り組みを実施することとしています。

主な取り組みは、下記ア・イの2点です。

ア 東京都池袋で毎年秋に開催される移住・観光のPRイベント「アイランダー」の参加。

イ アイランダーの日程に合わせて東京都有楽町にある「ふるさと回帰支援センター」で離島PRセミナーを開催。

そこで、大学生等の若者や企業等を対象とした集客を図る案内・企画立案等の支援を行っていただきたいと考えています。

【案】関東圏の大学生や若者が興味を持って来たくするような離島PRセミナー（移住相談会等）への集客方法及びプログラムの検討。

各島のこれまでの取り組み状況について

宇久地域（佐世保市）の取り組み

- ・西九州させば移住サポートプラザ（本土）が移住政策を推進。
- ・宇久行政センターはアイランダーやながさき移住サポートセンター主催の移住相談会に参加し、移住相談会を実施。

小値賀町の取り組み

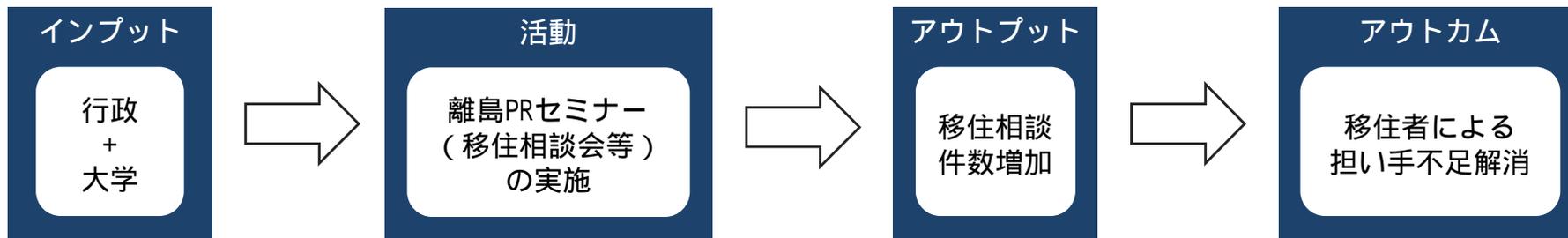
- ・移住支援員の設置 ・定住促進住宅の建設 ・空き家バンク ・移住特設サイトの設置 ・おぢか町移住サポートセンターの設置設計
- ・ながさき移住サポートセンター主催の移住相談会への参加 ・アイランダーでの移住相談会の実施 ・小値賀町移住支援金の拡充予定

新上五島町の取り組み

- ・都市部で開催される移住相談会への参加。
- ・空き家バンク ・移住定住促進住宅の整備 ・ながさき移住サポートセンター、西九州させば移住サポートプラザとの連携

五島列島北部地域への移住促進

ロジック及び行政における成果指標



- ・アウトカムは、人口減少に起因する様々な産業の『担い手不足の解消』で合意しています。
- ・相談件数30件（各島10件）が目標。 令和4年度のアイランダーでの実績は3島で8件。



宇久地域の活性化について

宇久島では自治協議会や産業界団体等の長で構成する「宇久島離島活性化協議会」という地元まちおこし団体があり、市が事務局を担っています。同協議会は「納涼花火大会」と「ふれあい産業まつり」を開催し、まちの賑わいを生んでいます。

同協議会の運営及びイベント開催に係る費用は、地域住民及び事業者による協賛金や提供品です。

しかし、安定した財源がないため、過去の繰越金を取り崩して実施している状況ですので、あと数年で開催困難となる見込みです。そこで、昨年同協議会に新たな部会を立ち上げ、イベントの魅力化などについて協議を始めたところです。

【案】同協議会で安定した資金を確保し、自立的に事業が展開できるための企画立案等を行っていただきたいと考えています。

「納涼花火大会」

- ・ 毎年8月14日に開催。
- ・ お盆の中日であり、多くの帰省客を含め、島の賑わいを生んでいる。
- ・ 昨年の来場者数は約400人。

	費用(千円)
R1	1,338
R2	中止
R3	1,223
R4	1,095
R5	1,341



佐世保市宇久地域の活性化

「ふれあい産業まつり」

- ・ 毎年11月の第2週日曜日に開催。
- ・ 農業協同組合のつきたてのお餅の配布や和牛の販売、漁業協同組合の魚のつかみ取り、商工会や島内事業者の出店等で島内の賑わいを生んでいます。
- ・ 昨年の来場者数は約600人。

	費用(千円)
R1	580
R2	中止
R3	中止
R4	285
R5	235



Oct27th 24



ZUNA UCHI

Aug9th-14th 24



CHANKOKO

Jan19th 25



HETOMATO



BARAMON KATE

島に残る伝統文化継承につながる 教育プログラムの作成



学校の統廃合。消える文化伝承習熟の拠点

島には、奇祭とまで呼ばれる特異な文化遺産が継承されている。その中でも「五島神楽」、「オーモンデー」や「ヘトマト」、「大宝砂打ち」は国の民俗文化財として登録された。人口減少と高齢化によって地域コミュニティが矮小化する中で、これらの地域の伝統芸能や祭りの継承のためには、地域の学校カリキュラムとして子供たちの学ぶ機会が重要になっていた。

しかし、子供の減少により学校が徐々に整理統合されてゆき、令和5年度には中学校2校と小学校2校が閉校した。統合により文化継承していた学区は、統合学区の片隅になり、学校の協力を得ながら伝統芸能などを習う授業の実施は以前より難しくなってゆくことが予想される。



五島市という自治体

- **概要** 五島市は、九州の最西端、長崎県の西方海上約100kmに位置している。五島列島の南西部にあって、総面積は420.12km²、10の有人島と53の無人島で構成されている。（五島市HPより）

- **人口** 34,408(-548)人（19,439(-139)世帯）令和6年1月（前年）
- **移住者数** 245人（令和4年）
- **高齢化率** 42.0(+0.5)%
- **学校と生徒数** 令和5年2月（前年）

小学校 12 (-2)校 1,414(-72)人・中学校 8(-2)校 763(-22)人
全日高等学校 4校 726(-33)人 計 2,903(-127)人

- **歴史と文化** 白村江の戦い（663年）後、新羅との外交関係が悪化すると、**遣唐使**は五島から東シナ海を横断し、波の高い外洋を通過する危険な航路をとるようになった。最後の寄港地にあたる五島において航海安全を祈り旅立った。その中には、天台宗を伝えた**最澄**と真言宗を広めた**空海**もあり、彼らに関する伝説が多く残っている。また**潜伏教徒の歴史**があり、市民に一定程度のカトリック教徒がおり、地域ごとに教会がみられる。

- **産業と観光** 赤サンゴを含めて宝飾品の製造が盛んだったが、資源の枯渇と共にブリ・真珠などの養殖業に切り替わり、高齢化や魚価の下落と共に養殖は大手企業による**マグロ養殖**、一般漁師は**定置網漁**に置き換わっている。地域によっては水源確保に苦慮しているが、コメ生産も少なくはない。毎年もち米も生産する農家では、「**かんころ餅**」をふかして干したさつまいもと併せて練り上げ作る習慣がある。これが特産品として観光施設などで販売されている。**ヤブツバキ**が山の中に自生しており、毎年2月になると「**椿まつり**」を開催している。



地域伝承の文化を残す

戦後復興以降、留まることもなく人口減少が続いてきた五島。その都度、学校は統合され閉校が進められてきた。令和5年度に閉校する地域にも国指定重要無形民俗文化財であるヘトマトなどがある。

驚異的な速度で進む過疎化の下で、伝統文化を子ども会や学校教育の場を使いながら子供たちに継承させるという取組みは限界にきている。地域にあった**学校は統合され**、町から子供たちの姿が消えた。



一方、1990年に小学校・中学校が閉校した大宝地区には、同様に国指定重要無形民俗文化財である大宝砂打ちが閉校後30年以上伝承されている。



変化する伝統

これはもはや当市だけの問題ではない。今や日本中の伝統芸能が消滅しようとしている。今の人数でできる形に矮小化させて維持したりできる内は良いほうで、既に存在すら忘れ去られてしまった芸もまた少なくないとみられる。

残し方の工夫

伝統文化消失の危機感を解消する

Project 1 学校閉校後 35年の未来を取材

大宝地区は、貴重な伝統文化が多く保全されている地域である。旧玉之浦町時代の平成2年度に人口減少に伴って、大宝中学校ならびに大宝小学校が統合されて以降まもなく35年を迎える。今回閉校を迎える他の地域にとっては「先行事例」となる大宝地区での取材を通じて、将来迎えるであろう課題や解決方法などのヒントを掴んでいきたい。

✓仕切る方との座談会実施

主に男性によって仕切られている伝統文化。次世代へのバトンの渡し方なども含めて地域の方々の話を聴いてみたい。

✓支える方との座談会実施

主に男性によって仕切られている伝統文化。されど祭りでは「ふるまい」という形での接待が行われ、そこでは女性たちが携わっている。支える側の方々の声を集めてみたい。また子供たちの声も集める。

Project 2 未来の情報をどのように今伝えるか

先行事例を単純に紹介するだけでなく、35年近く残せた仕組みを分析した上で、最小限でも守るべきことを探し出していく。さらにその結果を本年度から学校を失う崎山、大浜地区の方々にどのように伝えるべきかを考える。

✓保全ファクターを知る

大宝で保全するために何をどの程度はすると決めていたのかを整理する。なぜそれがあればスムーズに保全できるのかを考察して、「〇〇をすれば保全ができる」仮説を立てる。

✓仮説の紹介と提案

立案した仮説に基づいて、実際に崎山、大浜の住民と交流会を行い、立案に対する意見を集約してまとめる。まとめられた意見を基に再びチームで議論し、修正した保全方法案を策定する。

君との島での挑戦が過疎地を変え、日本を変える。

東京大学FS実施スケジュール



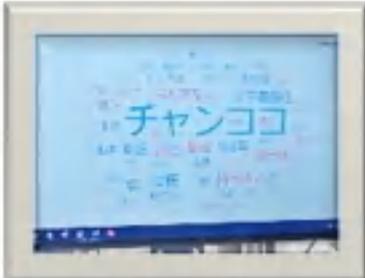
6月（適切な時期に東大へ訪問）

当地地域課題と当プロジェクトについての説明を学内で行う。五島の伝統芸能を映像で紹介する。初めて伝統芸能を観た時に感じた魅力などを語り合いながら、現状で想定する仮説のアイデアを発表し合う。



8月1回目現地入り（時期：大浜・崎山チャンココ）

念仏踊りの練習または本番を見学できる時期を目標に日程を調整して来島。現地を見学。大宝町内会の方々との交流。大浜、崎山の住民との交流も実施。



10月（時期：大宝砂打ち）

得られた情報の整理をチームで行う。

1月2回目現地入り（時期：下崎山へトマト）

現地の見学。対象地区での仮説の紹介と地元意見の集約。大宝町内会との交流も実施。



2月3回目現地入り（現地報告会）

五島市内において市民向けの報告会を行う。

なお本市プロジェクトの成果については、市広報への掲載だけでなく、関係学会での発表・学术论文への投稿で公表していく予定。

熊本の草原維持に向けて

—目指そう！阿蘇世界文化遺産—

東京大学フィールドスタディ型
政策協働プログラム提案書

熊本県阿蘇地域
(阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、
高森町、西原村、南阿蘇村)

熊本県阿蘇地域の紹介

▼構成自治体

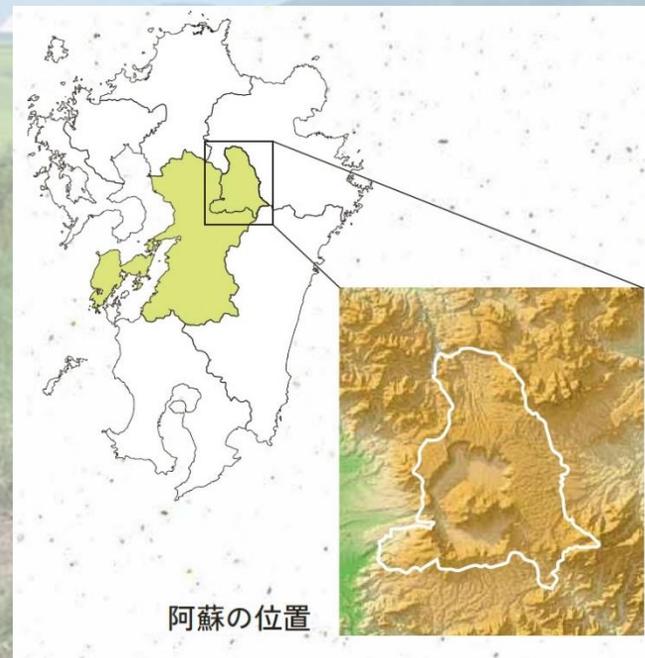
阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村

▼人口

58,703人（R2国勢調査・7市町村の合計）

▼阿蘇地域の特徴

九州のほぼ中心部に位置し、南北約25km、東西約18kmの大きさを誇るカルデラを有しています。阿蘇の壮大な景観は、日本の伝統的な土地利用である「草地－森林－居住地－農地」が、カルデラ全域に広がることにより形成されています。「野焼き・放牧・採草」の草地管理システムに基づいた人々の営みにより、千年以上にわたって半自然草地が維持され続けてきました。



▼阿蘇の位置図



▼あか牛が有名です

阿蘇地域の課題①



▼畜産業の衰退や地域の人口減少、高齢化が進行中、将来にわたって野焼き等を担う後継者が不足し、野焼き面積の減少が加速。

▼県の取組み

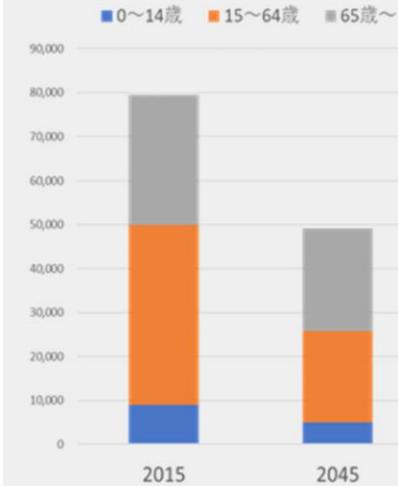
後継者育成研修、野焼き休止中の牧野への野焼き再開支援、ICT活用の促進、財源・人材を確保するためのサポーター認証事業など、様々な取組みを実施中。



しかし…

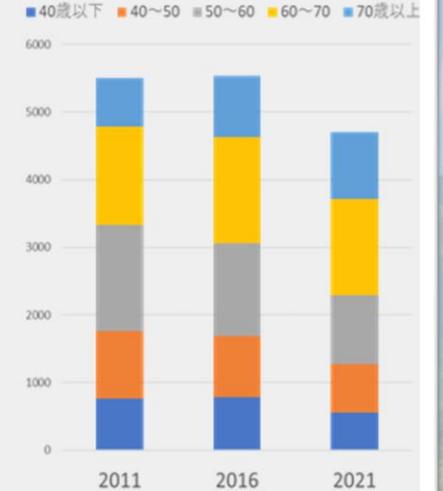
- ・草原維持の担い手不足や草原面積の減少は進んでいる
- ・減少し続けると、30年後、約6割の草原が減少し、観光資源である景観が損なわれるとともに阿蘇の草原が有する多面的機能（水源涵養機能や炭素固定機能、生物多様性など）が失われる恐れ

将来の阿蘇地域関係8市町村の人口予測

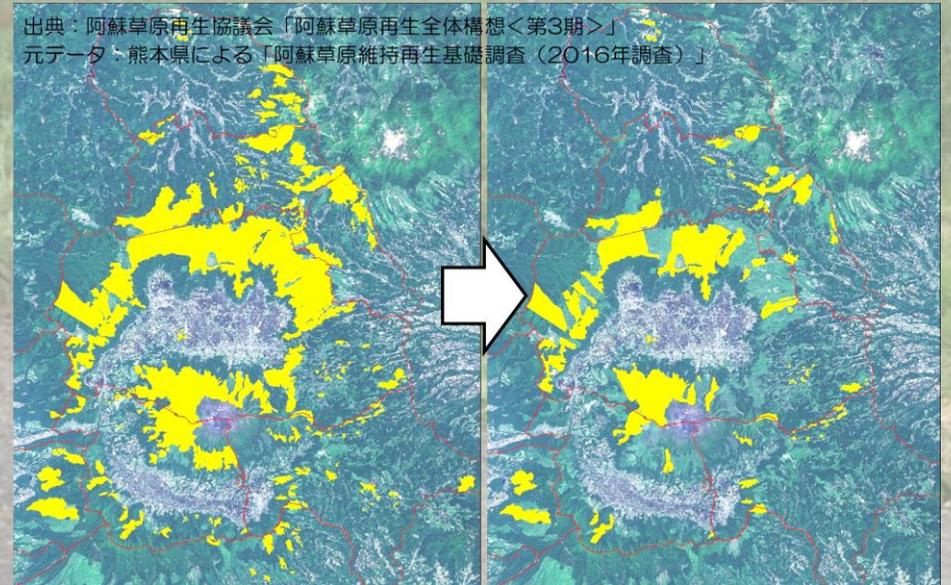


出典：国勢調査(総務省)、将来推計人口(厚生労働省社人研)

地元の野焼き出役者の年齢構成



出典：阿蘇草原再生協議会「阿蘇草原再生全体構想<第3期>」
元データ：熊本県による「阿蘇草原維持再生基礎調査(2016年調査)」



30年後の草原面積イメージ（面積比約6割減）
（調査時点：2016年）

阿蘇地域の課題②

▼世界文化遺産登録に向けた取組みの認知度不足

阿蘇の美しい景観を守り、未来へ引き継ぐため、平成19年から世界文化遺産登録に向けた取組みを進めているが、地元地域、県内外において十分な認知度とは言えない状況



県政記者・全国記者向け現地ツアー



東京でのシンポジウム

プログラムで提案いただきたいこと

▼課題解決に必要と考えていること

阿蘇の草原は、その面積は100年前の半分以下にまで縮小し、今もなお減少し続けています。阿蘇の景観が損なわれることのないよう、草原を維持していくためには、野焼きや畜産業従事者のみならず、多くの関係者との連携や支援が不可欠です。

▼学生の皆様に考えていただきたいこと

阿蘇の草原維持及び世界文化遺産登録に係る課題については、地域振興、農学、環境学、経済学、経営学など他分野にわたる「総合知」での対応が求められています。そのため、多角的・学際的視野での検討を行っていただきたいです。

▼提案いただきたいこと

- ①野焼きの担い手確保や畜産業の振興策、草原維持の関係人口増加に繋がる策など、草原維持のための具体的な方策
- ②「阿蘇」の世界文化遺産としての価値を発信するための効果的な情報発信手段、応援団形成のための具体的な方策

プログラムのスケジュール（予定）

5月下旬～7月

- ・活動計画打合せ（オンライン）
- ・事前調査

8月～9月

- ・東京シンポジウムへの参加（仮）
- ・現地活動①（現地視察、地元市町村職員や牧野組合員等との意見交換）

10月～11月

- ・現地活動②（現地視察、地元市町村職員や牧野組合員等との意見交換）

12月～1月

- ・事後調査
- ・提案まとめ

2月～3月

- ・現地報告会
- ・機会があれば野焼きの見学

※上記スケジュールを予定しておりますが、参加学生の皆様と調整しながら進めていきます。

皆様のご参加をお待ちしております！

げんと、
つながる。



諸塚村
Morotsuka Vill.

しぜんと、
つながる。



諸塚村
Morotsuka Vill.

しぜんと、
つながる。



諸塚
Morotsuka Vill.



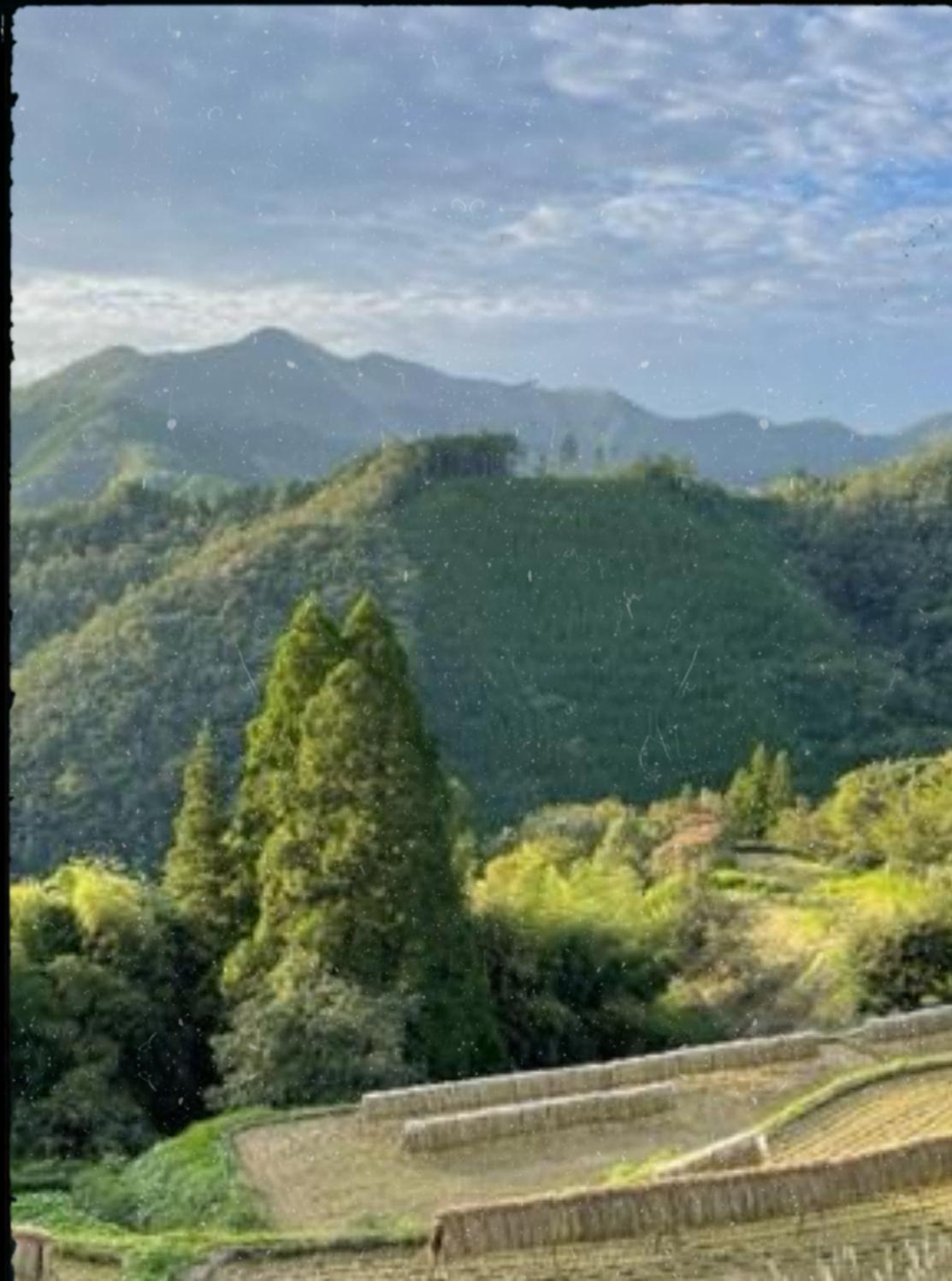
フィールドスタディ型政策協働プログラム～宮崎県諸塚村～

林業と椎茸の村

宮崎県諸塚村

#FSC森林認証を取得した森づくり

#2015年世界農業遺産の認定





諸塚村

Morotsuka Vill.

人口 1,322人(令和6年4月1日現在)

面積 18,759ヘクタール

林野率 95%

→平地が少なく、山間部に84の集落が点在

アクセス 日豊本線 日向市駅から車で1時間



ぎゃあな諸塚！！

ぎゃあなは諸塚弁で元気という意味です





林業立村むらづくり

自治公民館制度

FSC® 森林認証

世界農業遺産

諸塚村の特徴





諸塚村

Morotsuka Vill.

実は
...

諸塚村はインターンシッププログラムが
充実していて随時学生を受け入れています

延べ80人以上
の学生が参加！

古民家での生活

村民との交流

村の食文化に触れる

伝統文化を見学・体験

森の中でキャンプ

山仕事の体験

あなたも中山間地域ならではの特別な体験をしてみませんか



諸塚村

Morotsuka Vill.

2023年活動内容

9月

- 山仕事体験(下草刈り)
- 椎茸生産場見学



11月

- 伝統芸能(民謡)の発表
- 村人との交流(集落の生活)



2月

- 南川夜神楽
- 事前準備及び当日の様子





大募集!

ぎやあな東大生!

📣 お知らせ 📣

5月18日(土)・19日(日)の五月祭で今年のFS生と諸塚村の特産品を販売します!

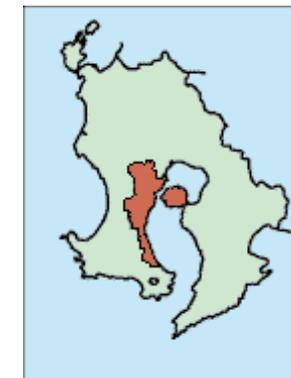
ぜひ来てね!

DX活用等による交通弱者の 「食」「医療」「社会活動等」の機会の拡大

鹿児島県鹿児島市 桜島総務市民課



鹿児島県の錦江湾に浮かぶ桜島は、周囲約55 km、面積約77 km²の火山で、地域内のほとんどが溶岩の大地、山林及び原野で住宅地は海岸線に沿って帯状に続いている。世界的な火山大国、日本においても最高峰の活火山が生み出す独自の貴重な自然環境や、都市と火山が共存する世界でもここでしか見れない景観資源を有している。



桜島地域は7,329haの区域が霧島錦江湾国立公園(鹿児島県指定名勝:昭和29年3月15日)

【参考】桜島火山ハザードマップ

桜島火山ハザードマップ

マップ作成の目的
 この桜島火山ハザードマップは、住民の皆様が桜島の過去の大型噴火の状況や今後の火山災害の危険性を事前に把握し、日頃の備えや緊急時の速やかな避難に役立てていただくために作成したものです。日頃から目に付くところに掲示してください。地域の皆様で緊急時の行動を話し合い、前兆現象や噴火状況に注意しましょう。

マップ外国語版 (英語・韓国語・中国語・朝鮮語)
 Sakurajima Volcano Hazard Map
 사쿠라지마 화산 해자드맵
 櫻島火山防災地圖
 櫻島火山防災地圖

避難促進施設一覧

No.	施設名	No.	施設名
1	桜島遊覧フェリーターミナル	17	わかむくキッズ倶楽部桜島
2	桜島遊覧レインボー桟橋	18	東桜島保育園
3	桜島シーサイドホテル	19	桜島保育園
4	さくらじまホテル	20	桜島小学校
5	青村洋行観光部	21	(併設) 知港入居 通商合衆
6	(併設) レストハウス	22	高齢者福祉センター-桜島
7	桜島福祉センター	23	高齢者福祉センター-東桜島
8	桜島ビジターセンター	24	グループホームわかむく1号棟
9	改新交流センター	25	桜島幼稚園
10	南栗リース桜島アトリオ (桜島観光会館)	26	桜島児童クラブ
11	道の駅「桜島 火の島のめぐみ館	27	桜島小学校
12	道の駅「桜島 桜島産産	28	東桜島小学校
13	さくらじま 交流センター	29	東桜島児童クラブ
14	南栗リース桜島 桜島支店	30	桜島中学校
15	高齢者福祉センター-桜島	31	東桜島中学校
16	桜島遊覧フェリーセンター	32	高千穂小学校
		33	桜島病院



わが家の避難先や緊急時の連絡先などを書き込みましょう。

わが家の最寄りのバス停・避難場は・・・
 (記入欄)

わが家の避難先は・・・
 (記入欄)

緊急時の連絡先は・・・
 (記入欄)

影響範囲 いつ・どうなる

	大規模噴火とほぼ同時に 噴石 が到達する可能性のある範囲
	大規模噴火後まもなく 火砕流 と 噴霧 が到達する可能性のある範囲
	強い山頂噴火時に 噴石 が到達する可能性のある範囲

凡例

	火口
	避難場
	避難所
	避難所(島内避難)
	バス停(島外避難)
	バス集合場所(島内避難)
	避難場(乗船場)
	避難場(乗船場)
	預託者避難場(乗船場)
	ヘリポート
	避難所
	防災関連施設
	避難施設
	避難促進施設
	防災行政無線
	国道
	普通道 3m の避難場所
	普通道 3.0m の避難場所
	県道
	土石災害警戒区域
	土石災害特別警戒区域

〔製図法に基づく国土地理院長承認(使用)R.3.06.744〕

人口等の推移

地域内の人口は、合併時比較するとほぼ半減し、人口減少が急速に進んでいる。
 特に人口に占める65歳以上の割合は50%を超えており、全市で最も高齢化が進んでいる地域である。(平成16年11月1日合併)

【桜島地域】

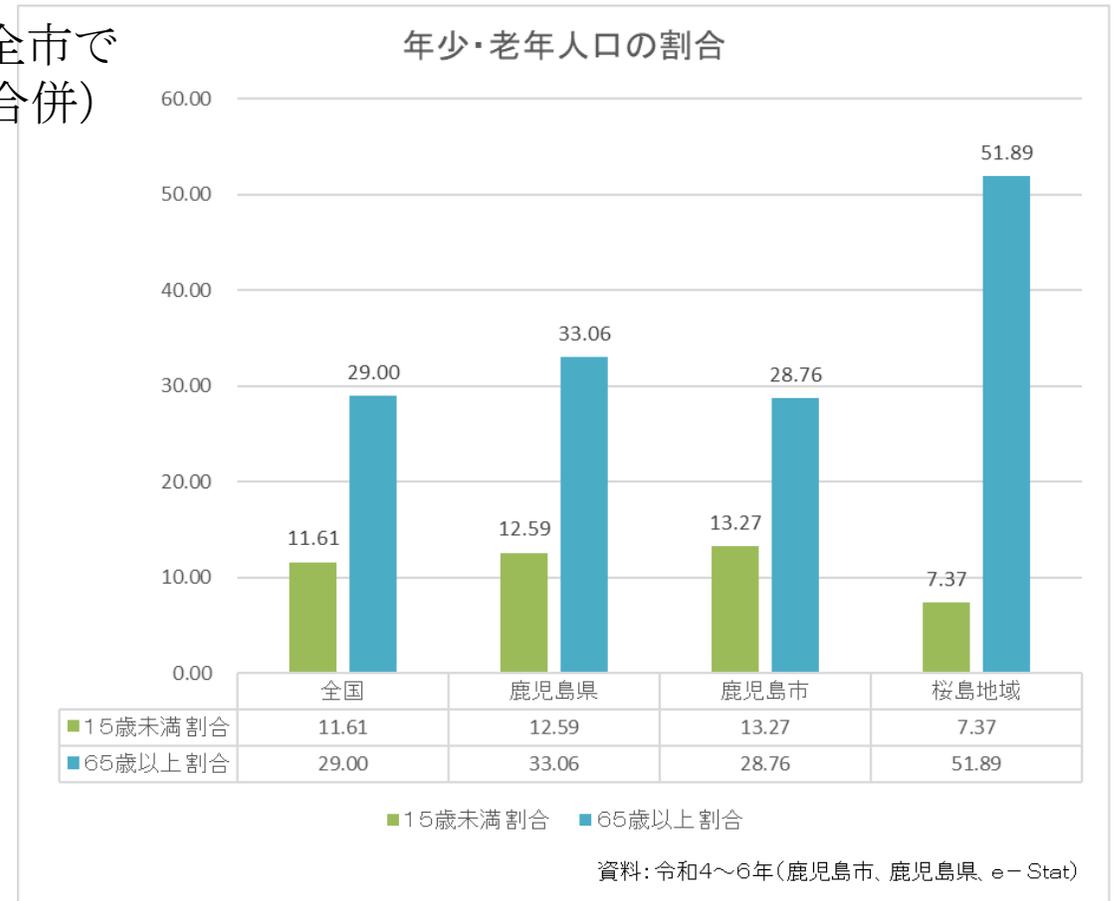
人口 3,554人(4,196世帯)
 高齢化率 51.89%
 15歳未満の割合 7.37%

学校と生徒数 令和5年4月

小学校(4校) 128人

中学校(3校) 59人 計 187人

※令和8年に全学校統合して1校に



桜島地域の課題

地域内の人口減少に伴い、島内の経済活動の衰退、飲食店や観光などの事業者の減少が目立つ。また、地域の血流を促す交通インフラ(路線バスや鹿児島市街地と繋ぐフェリー)の減便と運賃上昇により島の暮らしはさらに厳しさを増してきている。

1. 交通・買い物弱者
2. 医療機関
3. 高齢者の生活スタイル
4. 通信弱者

地方では、「コミュニティバス」や「オンデマンドタクシー」に期待したが、ドアtoドアが必須の高齢者やお店までが遠距離の田舎では高価……の課題で使いづらい

これから実証実験

地方では当たり前前の互助運送を桜島全体で取り組む動きが始まる
ボランティア運送「桜島版notteco(のってこ)」

地方の交通インフラ/ベーションを桜島から考える

「桜島」という社会の縮図とも言えるテストフィールドを舞台に、
全国地方に通じるアイデアを一緒に考えましょう。

桜島のテストフィールドとしての特性

島という生活圏の明確さ

島民の生活圏は島という大地のくくりがあるため、交通用途が理解しやすい

一周36kmというコンパクトアイランド

車で1時間ほどで一周できる距離であり、土地勘がなくても島全体の把握がしやすい

分かりやすい交通路線(外周道路+航路)

島の人が利用する公共交通はバス・タクシー・フェリーの3択で利用手順もシンプル

※フィールドの複雑な事情把握に割く時間以上に、地域で活用できる「アイデア」を考える時間が多いプロジェクトです

鹿児島県鹿児島地域



2024年度
フィールドスタディ型
政策協働プログラム
オリエンテーション
資料

 **鹿児島県**
鹿児島地域振興局
総務企画課

1 鹿児島地域の概要

(単位：km²，人(%)，千円)

区分	鹿児島地域	鹿児島市	日置市	いちき串木野市	三島村	十島村
面積	1,045.46	547.61	253.01	112.30	31.39	101.15
人口(構成比)	668,916 (100.0)	593,128 (100.0)	47,153 (100.0)	27,490 (100.0)	405 (100.0)	740 (100.0)
15歳未満	85,217 (12.7)	75,680 (12.8)	6,134 (13.0)	3,165 (11.5)	95 (23.5)	143 (19.3)
15~65歳未満	360,064 (53.9)	321,038 (54.1)	24,323 (51.6)	14,107 (51.3)	203 (50.1)	393 (53.1)
65歳以上	185,913 (27.8)	158,804 (26.8)	16,626 (35.3)	10,172 (37.0)	107 (26.4)	204 (27.6)
年齢不詳	37,722 (5.6)	37,606 (6.3)	70 (0.1)	46 (0.2)	- (-)	- (-)
就業者数(構成比)	306,690 (100.0)	271,403 (100.0)	21,957 (100.0)	12,696 (100.0)	212 (100.0)	422 (100.0)
第1次産業	5,471 (1.8)	3,302 (1.2)	1,324 (6.0)	732 (5.8)	38 (17.9)	75 (17.8)
第2次産業	47,953 (15.6)	38,986 (14.4)	5,335 (24.3)	3,535 (27.8)	22 (10.4)	75 (17.8)
第3次産業	245,381 (80.0)	221,555 (81.6)	15,049 (68.6)	8,355 (65.8)	152 (71.7)	270 (64.0)
分類不能	7,885 (2.6)	7,560 (2.8)	249 (1.1)	74 (0.6)	- (-)	2 (0.4)
市町村民所得	2,545	2,599	2,120	2,157	1,062	1,996

(注) 面積は2023年10月1日現在の国土地理院調べ、人口及び就業者数は2020年国勢調査結果(総務省統計局)、市町村民所得は2020年度市町村民所得推計結果(鹿児島県統計協会)

2 ゲームアプリの概要



- **アプリ名**：うたた往時のなつかしや（略称：うたなつ）
- **目的**：主に10代～30代の女性をターゲットとしたゲームアプリを開発・活用することにより，鹿児島島三大行事の一つである「妙円寺詣り」や鹿児島地域の歴史や観光地などに興味を持ってもらい，妙円寺詣りの参加者や鹿児島地域への観光客を増やす。
- **主な仕様**
 - **書物**：鹿児島島の観光地や関ヶ原の戦いの島津の退き口を盛り込んだストーリー（内容はフィクション）
 - **出陣**：操作は自動で，ゲーム初心者でも簡単に楽しめるバトル
 - **座学**：鹿児島地域の歴史や観光のクイズ
 - **よろずや**：育成アイテムとして鹿児島県の特産品が登場
※鹿児島県の特産品が購入できるサイトのリンクを貼っている。
 - **お知らせ画面**：ゲームの更新などのほか，イベント情報などを周知



うたた
往時の
なつかしや



3 他自治体の例

- **徳島県つるぎ町（つるぎRPG開発プロジェクト）**
歴史や文化，観光などを取り入れた『RPG』を制作・配信し，ゲームをとおしてつるぎ町を訪れ知ってもらふことで，地域活性化を図る。
(出典：[つるぎ町企業版ふるさと納税制度](#)，[つるぎRPGプロジェクト進行中です!](#))
- **佐賀県（サガプライズ!）**
企業・ブランドとコラボレーションして佐賀の地域資産を磨き上げ，全国に佐賀県の魅力を発信するとともに，その活動から得られた知見や手法を地域にフィードバックすることで，“情報発信による佐賀県の地方創生”を目指すプロジェクト
(出典：[佐賀プライズ!](#))
- **宮城県石巻市（キズナファンタジア 海辺の国の大聖典）**
ゲーム内には実在する観光名所や特産品をモチーフにしたモンスターなども登場するので，遊びながら石巻への知識が増える仕掛けとなっている
(出典：[石巻市地方創生RPG「キズナファンタジア 海辺の国の大聖典」](#))

4 東大生の皆さんにお願いしたいこと

- ゲームアプリのより効果的な若者への周知方法を考えていただきたい。
- ゲームアプリを活用した効果的な鹿児島地域の交流・関係人口を増加させる方法を考えていただきたい。
- ゲームアプリを活用した効果的な鹿児島地域の特産品等を購入していただく方法を考えていただきたい。（営利目的につながらない範囲で）

※提案していただいた内容次第では、ゲームアプリへの反映の可能性あり

～スケジュール（案）～

2024年8月～9月（大学の夏季休暇中）

鹿児島地域の観光地等の見学，妙円寺詣り関係者からの聞き取り，
ゲームアプリ開発会社への見学

2024年10月26日，27日（可能であれば）

妙円寺詣りの見学

2025年2～3月

現地報告会



能登町



FS能登町
(体験活動プログラム)

能登の里山里海を紡ぐ 関係人口創出

FS能登町支援チーム

農学生命科学研究科 修士2年 志賀 智寛

東大FS能登町支援チーム

能登半島地震で被害を受けた町を支援しようと、過去のFS能登町に参加していた学生の有志で立ち上がったチームです。地震発生後、以下のような活動を行っています。

- Instagramでの情報発信
- 義援金の呼びかけ
- 現地での支援活動
- 支援活動に関する東大基金の設立
- 復興支援イベントの企画
- 体験活動プログラムの企画

学内広報への掲載

U-Tokyo

シンポジウムでの呼びかけ

現地での支援活動

ポスターの掲示

専門知と地域をつなぐ架け橋に
FSレポート! 第29回(特別版)
能登町の未来に向けて FS能登町支援チーム

はじめに、この度の令和6年能登半島地震で犠牲となられた方々に心よりお悔み申し上げます。これまで7年にわたり、28人ものFS参加学生を受け入れていただき活動を行ってまいりました。私たちは、美しい里山里海や地元の方々の温かさに魅せられ、何度も能登町を訪問して、関係を紡いできました。今年度の活動も終盤に差し掛かっていた2024年1月1日、能登半島地震が発生しました。テレビやSNSで目にした現地の様子は、私たちが見慣れた町からは一変していました。これまでもお世話になった能登町に対し、自分たちにはできないことはないのか。その思いから、これまでのFS参加学生有志で、能登町支援チームを立ち上げました。そして、東京にいる自分たちができることを少しずつ始めていこうと考え、チームのInstagramアカウントでの情報発信や災害義援金の呼びかけなどの活動を行っています。★東京大学・能登町役場と連携し、現地の中高生への支援や東大基金を活用した体験活動プログラムの開催など、能登町の未来につながる支援を進めていく予定です。活動にあたっては、学内の知見やリソースを最大限活用しながら進めていきたいと考えております。

↑歴代のFS能登町生が集結し、現地のお祭りに参加(昨年7月)

→学内に周知した義援金の呼びかけ

で、ぜひご協力いただけますと幸いです。優しさ溢れる町の方々の穏やかな暮らし、美しい里山里海、自然が育む能登の幸、独自の発展を遂げた伝統文化。かけがえない能登を守るため、どうか皆様のご支援のほどよろしくお願いたします。

⑧ 支援チームのInstagramアカウント
⇒ @noto_choice2022

昨年度までの7年間で28名の学生が活動 →8年目が計画されるも、能登半島地震で中止に



NOTO CHOOSER
四人組の挑戦

能登町×東京大学FS事業の歩み



2017年度
能登町での
FS受入開始

2017・2018年度
小木地区の活性化
『いか純米』製作

2019・2020年度
山口集落の持続化
「あえのこと」の配信

2021・2022年度
『NOTO CHOICE』製作

「高校生と創る写真展」

- 目的：震災前の能登町の綺麗な風景を知ってもらう
- 日時：2024/4/28（日） 13:00-20:00
- 場所：渋谷スクランブルスクエア15階 渋谷QWS
- 共催：能登高校に地域留学をしていた高校生
 - 震災直後から能登の風景を発信し話題に
 - 能登町でできなかった写真展を都内で実施
- 内容：震災前の能登の写真展、能登町の物産紹介
- 入場無料・事前予約不要・途中退出可能



今だからこそ
知って欲しい、
能登の美しさ

NOTO

能登にいた高校生



Instagram

能登高生と創る写真展

「綺麗な能登町を知ってほしい」
その想いから SNS で能登町の日常を発信してきた
「能登にいた高校生」と創る能登町の魅力を伝えるイベント

詳細はこちら



Instagram

イベント詳細

- ・開催日：2024年4月28日（日）時間：13:00～20:00
- ・場所：渋谷 QWS（渋谷スクランブルスクエア 15 階）
- ・入場無料 & 事前予約不要 & 途中退室可能
- ・主催：東京大学 FS 能登町支援チーム
- ・後援：旅と学びの協議会、能登ローカルシフトアカデミー、石川県能登町

能登高生と創る写真展
参加申し込みアンケート

ご協力をお願いいたします



紹介②

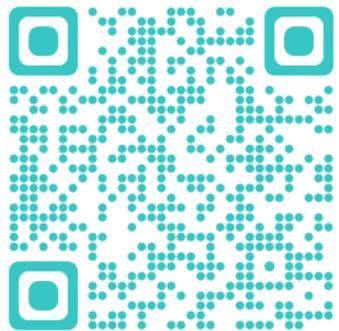
体験活動プログラム≡FS8期

■ 8年目のFS能登町としての活動

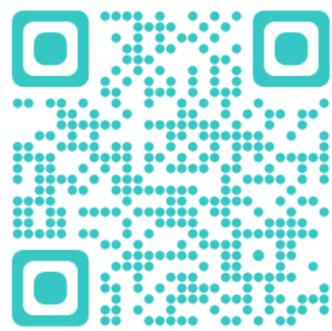
■ 期間：1年間（複数回の現地訪問）

■ 支援チームが伴走→能登町役場との活動へ

■ 募集締切：2024/06/06



体験活動HP



本プログラム
詳細

プログラム名 (40字以内)	能登の里山里海を紡ぐ関係人口創出 ～FSの継続から能登町の復興へ～		
団体名/所属	FS能登町支援チーム・石川県能登町 (活動指導教員 大気海洋研究所 津田敦 教授)		
活動区分	ボランティアなどの社会貢献活動	希望する選考方法	書類審査後に面接(書類審査合格者には6/7-14の間で面接を行います)
募集人数	3～5人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	オンラインを活用しつつ現地活動を行う		
参加者に求めるもの	定期的なミーティングや現地活動等(詳細は後述)、プログラムの全期間での継続的なコミットメントを求めます。活動内容・形式・忙しさ等はFSに準じるため、必ずFSのHPを確認して概要を理解してからご応募ください。		
活動期間	2024年7月中旬～2025年3月中旬まで (2回の現地での活動は参加者決定後に日程調整いたします。夏季休業中など授業時間外に実施し、学業には支障のない形で行います。また、月に数回程度のミーティングや学内調査等	主な活動予定場所	石川県能登町、大学内等
プログラム実施の目的	2023年度まで7年間継続してきたFS能登町ですが、2024年1月1日の能登半島地震によって、能登町では8年目の準備が進められていた中でその準備を中止せざるを得なくなり、2024年度の応募もできなくなってしまいました。本企画は、能登町がその8年目の活動を続けられるよう、これまでFS能登町に参加した学生からなる能登町支援チームが企画・運営を引き継ぎ、体験活動プログラムとして募集するものになります。参加者には、これまでのテーマである「能登町の関係人口を創出すること」とともに、「能登町の復興に寄与すること」という目的に沿って、FSと同様の形で活動を進めていただきます。		
具体的な内容(800字程度)	<p><はじめに> 石川県能登町には、豊かな里山里海・あばれ祭に代表されるような神事等、日本の原風景とも言える生活・文化が根づいています。しかし、人口減少等の課題から、これらの継承には課題があります。そこで能登町では、関係人口を創出することによりこれからの能登町をともに作っていくという試みが行われており、FSではこれまで7年間で28人の学生が能登町とともに活動してきました。能登半島地震という大きな震災を経験した能登町とともに、復興への道のりを進め、同時に地方が抱える根本的な課題の解決に寄与する活動の参加者を以下の通り募集します。</p> <p><活動概要> 石川県能登町を活動地域とするフィールドスタディ型政策協働プログラム(FS)の8年目の活動という形で実施いたします。なお、例年FS能登町チームを受け入れてくださっている自治体担当者の方々も能登半島地震の復興業務にも携わっているため、状況が改善するまでの間、FS能登町の1～7年目のメンバーの有志で構成されるFS能登復興支援チームが、現地の方々と仲介等サポートを行います。</p> <p><活動内容> ◎関係人口創出・復興に寄与する取り組みを企画・実行していただきます。活動の詳細については、参加者・能登町・FS能登町支援チームで協議を行い、決定していきます。 ・現地活動(視察・ボランティア等) ・学内調査や定期的なミーティング ・考えられる具体的な取組例(仮のものです) →PR/復興支援イベントの実施 →ボランティアや被災地の視察を行うツアーの企画 →支援チームや本企画の来年度以降への引継ぎなど、継続的な支援体制の構築</p>		



皆様のご協力をお願いいたします。

